

## 雜 報

### 河本教授逝去

元本所所員、長崎醫科大學教授河本禎助博士ニハ豫テ病氣中デアツタガ、藥石效無ク去ル1月5日(日)午後3時、長崎市伊良林ノ自宅ニ於テ途ニ逝去サレタ。享年55歳デアツタ。

教授ハ大正4年4月ヨリ本所ニ勤務、爾來昨年3月長崎醫科大學教授ニ任セラレル迄、20年ノ長キニ互リ、化學部主任トシテ研究竝ニ指導ニ盡力サレ、學界ニ多大ノ寄與ヲナスト共ニ、其ノ間運動界其ノ他各方面ニ幾多ノ貢獻ヲナサレタコトハ世人ノヨク知ルトコロデアアル。英敏ナル頭腦ト明朗豁達ナル性格トハ實ニ多方面ニ互テ多大ノ感化影響ヲ及ボシテキル。昨年與望ヲ負ツテ、非常ナル決意ヲ以テ長崎醫大ニ赴任シ、理想ニ邁進セラレツ、アツタガ、業未ダ緒ニ就カザルニ逝去セラレタルハ、誠ニ惜ミテモ餘リアルトコロデアアル。

葬儀ハ1月8日(水)午後3時半ヨリ長崎市榎屋町光林寺ニ於テ執行サレ、本所ヨリハ小島教授ガ派遣サレ代表トシテ參列、供物ヲ呈シ、次ニ記載スル如キ所長ノ吊詞ヲ代讀シタ。學友會ハ本月ノ實驗醫學雜誌ノ卷頭ニ教授ノ略歷ヲ附シタル寫眞ヲ掲載シテ哀悼ノ意ヲ表スルコト、シタ。

尙49日忌ニ當ル2月22日(土)、日本青年館ニ於テ各種團體聯合シテ追悼會ヲ開催スル豫定デアアルガ、イヅレ詳細ハ夫々通知ガアル筈デアアルカラ、奮ツテ參會サレルコトヲ希望スル。

### 吊 詞

河本教授ノ靈ヨ、君ガ傳染病研究所ニ來ラレタルハ、大正4年4月、實ニ傳染病研究所ガ東京帝國大學ニ移管附置セラレテ幾干モナキ時、傳研ガ學術研究ニ、製造作業ニ、劃期的ニ飛躍ヲナスベカリシ時、又ナシツ、アリシ時ナリキ。

君ハ化學室囑託トシテ生化學ノ研究ニ没頭シツ、一方抗毒素血清製造ニ從事セラレタルナリ。

後、君ハ大正7年11月傳研技師トナリ、化學室主任ヲ經テ昭和2年9月東京帝國大學教授ニ任セラレ、傳研所員ニ補セラレ、化學部主任ヲ勤務セラレタルモノ、林、長與兩所長ノ統率ノ下ニ、余等ト共ニ協力シテ、研學ニ精進、殊ニ後進學徒ノ指導ニ盡サレ、君及君ノ門下ノ著セル業績ハ生化學界ニ貢獻スルコト多大ナルモノ誠ニ多シ。

君ハ一面情ノ人ナリキ。己ヲ空クシテ人ノ爲ニ盡スノ勞ヲ厭ハザルモノアリ。尋常ノ學徒、トモスレバソノ煩ヲ避ケテカメント欲セザル難業ニ、身ヲ挺シテ當タルヲ意トセザリキ。例ヘバ學會開催等ニ際シ君ガ同僚ヲ助ケテ指揮統率セラルレバ、即チ必ズ良果ヲ得タリ。

君ト余トハ專門科コソ異ナレ、時ヲ同ジクシ、窓ヲ同クシ、相誓ヒ、相勵マシテ、傳研所員ノ重キニ任セント努メ來タルレ茲ニ20年、ソノ間、君ガ明朗ニシテ勤勉ナル性格ニヨリ、余等ガ受ケタル感化モ亦大ナルモノアリキ。

先年余乏シキヲ以テ所長ノ重任ニ就キタルモ、君傍ニアツテ、ソノ明智ト英斷トヲ以テ、余ヲ助クルアルヲ豫期シタレバナリキ。

昨春君ハ長崎醫科大學教授ノ任ニ轉セント決意セラルト聽キテ、余及余等ノ同僚ハ傳研ノタメ、君ノタメ、切ニ思ヒトマラレンコトヲ望メルモ、君ノ決意堅キモノアリキ。

思フニ、君ハ心中深ク決意スルトコロアリテ、先輩ノ勸請ニ沿フベク、又自ラノ抱負ヲ實現スベク、同醫科大學學長タラント企圖セラレタルモノ、以テ君ガ科學ニ對スル純真ナ

ル熱愛ト、敬虔ナル研究心ト、少壯醫學者ヲ養成セントスル犧牲的精神トノ發露ヲ見タリ。

余等モコノ上ハ、君ガ今後長崎醫科大學ニ於テ、從來君ガ傳染病研究所ニ於テト同様ノ活躍ヲ私ニ期待シテ已マザルモノアリシニ、天何ゾ無情ナル、コノ熱情ノ人、純眞ノ人、努力ノ人、博學ノ人ニ齡ヲ籍サズ、業半ベニシテ、否業未ダ緒ニ就カザルニ、此地、君ガ晩年憧憬ノコノ日本近代醫學發祥ノ地ニ於テ逝ク。

余等ノ悲モサルコトナガラ、逝ケル君自ラノ無念遺憾イカバカリゾヤ。

今ニシテ思フ。返ヘラス愚痴ヲ述ブルヲ許シ給ヘ。君ノ運命斯ノ如キモノアリシナラバ、我が傳研ニ、君ガ半生奮闘ノ追憶多キ傳研ニ於テ、舊友ト門下ニ見守ラレテ逝カシメタカリシト悔ムモノ、蓋シ余一人ノミニテハアラザルベシ。

在天ノ靈ヨ。君ハ任ヲ長崎醫科大學教授ニ受ケテ、長崎ノ地ニテ永眠セルモノナリ。逝ケル君ニ多クヲ語リテ尙君ヲ煩ハスヲ欲セザル余ハ、君ガ御靈ハ唯長崎醫科大學ヲ見ソナラセ給ヘ。而シテ長崎醫學ノ守護神トナレ。ナツテ而シテ生前此地醫學ニ奉ズルコト薄カリシヲ嘆キ給フ勿レ。トノミ言フ。

昭和11年1月8日

傳染病研究所長 宮川米次

## 淺田、田中、加地、島崎、菅

### 5氏送別會

當所技手田中正稔、加地信及ビ囑託淺田順一、島崎正雄、菅勝征ノ5氏ハ今回滿洲國衛生技術廠ニ赴任スルコトニ決定シタノテ、去ル12月12日(木)、丸ノ内中央亭ニ於テ送別會ガ開催サレタ。所長ノ都合ニヨリ、午後5時ヨリ同亭廣間ニ於テ送別ノ式ガ舉行サレ、所長ヨリ送別ノ訓辭ガアリ、ソレニ對シテ答辭ガアリ乾盃シタ後、6時ヨリ宴會ニ移リ、多數ノ人ノ祝辭、激勵ノ辭等ガアリ、ソレニ對シテ謝辭、抱負等ガ述べラレ極メテ盛會裡ニ8時過散會シタ。

## 第79回講習會終了式

去ル12月14日(土)午前10時半ヨリ當所講堂ニ於テ第79回講習會終了式ガ舉行サレ、所長ヨリ一場ノ訓辭ガアツタ。

## 淺田、田中、加地、島崎、菅 5氏出發

滿洲國衛生技術廠ニ赴任ノ淺田順一、田中正稔、加地信、島崎正雄及ビ菅勝征ノ5氏ハ、去ル12月16日(月)午後9時東京驛發赴任ノ途ニ就タ。「プラットホーム」ヲ埋ムル多數ノ見送りノ歡呼ノ聲ニ送ラレテ、新興滿洲國ノ醫學、衛生方面ニ有意義ナル活動ヲナサントスル決意ヲ眉宇ニ漲ラシテ、5氏ハ元氣ヨク出發シタ。

## 學術集談會

去ル12月19日(木)午後1時ヨリ所内講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレ、演題ハ次ノ如クデアル。最近歐洲ヨリ歸朝サレタ田宮理學博士ハ、別項所載ノ如キ、最近ノ國際政情裡ニ於ケル歐洲ノ學界、殊ニナチス治下ノドイツ及ビソヴェット政治ノロシアニ於ケル學界竝ニ科學者ノ立場ニ就テ極メテ有意義且ツ興味アル講演ヲナサレタ。

### 演題

1. 單節條蟲ノ一新種 *Amphilina japonica*  
故五島清太郎君  
石井信太郎君
2. 皮下種痘(精製痘苗)實施成績ニ就テ  
矢追秀武君
3. 歐洲ノ生物學界ノ近況  
田宮博君
4. 動物ノ流行性腦炎(綜説)  
城井尙義君

## 新年式舉行

本所ニ於テハ例年1月4日ニ新年式ヲ舉行シテキタガ、今年カラ6日ニ行フコト、ナリ。去ル1月6日(月)午前11時ヨリ本所講堂ニ於テ舉行サレタ。先ヅ「君ガ代」ヲ2唱シタ後、

所長ヨリ昨年1年間ニ於ル本所ノ主ナル業績、人事及ヒ本年ノ計畫等ニ就テ一場ノ挨拶ガアツタ後、食堂ニ於テ祝賀會ヲ催シ、萬歳ヲ唱ヘテ散會シタ。

### 學友會へ寄附

一、金 231圓 20錢也	柿原 辰雄君
一、金 30圓 30錢也	早川 清君
一、金 6圓 99錢也	{武田 德晴君 須賀井 忠男君
一、金 9圓 39錢也	須賀井 忠男君
一、金 386圓 16錢也	許 遼君
一、金 50圓也	宇賀 武俊君
一、金 9圓 99錢也	石井 信太郎君

### 人事異動報告

昭和10年12月25日 傳染病研究所

發令 月日	辭 令	官職	氏 名
----------	-----	----	-----

- 11.30. 陸叙高等官3等  
技師 野邊地 慶三
12. 2. 叙從4位 教授 田宮 猛雄
- 12.12. 昭和9年7月11日付願研究生入學ノ  
件許可ス 中 神 清 一

- 12.13. 學術上取調ノ爲岡山縣下へ出張ヲ命  
ス 教授 三田村 篤志郎
- ” 學術上取調ノ爲岡山縣下へ出張ヲ命  
ス 技師 山田 信一郎
- 12.16. 依願免本官  
技手 田中正 稔
- ” 依願免本官  
技手 加地 信
- ” 依願傳染病研究所血清製造業務囑託  
ヲ解ク 菅 勝 征
- ” 依願傳染病研究所ニ於ケル寄生蟲ニ  
關スル研究業務囑託ヲ解ク  
淺田 順一
- ” 依願傳染病研究所血清製造業務囑託  
ヲ解ク 島崎 正雄
- 12.18. 賜本俸6級俸  
教授 竹内松次郎
- 12.18. 本俸六級俸下賜  
助教授 遠山 祐三
- ” 五級俸下賜  
事務官 檜山 兼次郎



3. 種々ノ脂酸(蟻酸及ビ Propion-酸ヲ除ク)ヨリノ Acet-醋酸形成ハ飼料ヲ與ヘタル動物ノ肝臓テハ NH<sub>4</sub>Cl ノ添加ニヨリ増加スル。而シテ偶數炭素ノ脂酸ハ 奇數炭素ノ脂酸ヨリモ β-Keto-酸ノ形成良好テ約3倍ニ相當スル。

4. 一般ニ NH<sub>4</sub>Cl ヲ添加スレバ 餓餓並ビニ正常動物ノ肝臓内ニ於ケル Ketogen-性ノ差異ガ消失スル様デアル。

5. NH<sub>4</sub>Cl ノ作用ニ對スル種々ノ抗-Ketogen-性物質(即チ Aceton-體ノ形成ヲ阻止スル物質)ノ影響ヲ比較スルニ Glycerin ノミハ其ノ作用ヲ阻止スル。(内野)

臓器抽出物及ビ生活精蟲ノ Kreatin-  
磷酸合成ニ就テ

Über Kreatinphosphorsäuresynthese in  
Organextrakten und in lebenden  
Spermatozoen. Isabel Torres.

Bioch. Ztschr. 283 B., 1-2 Heft,  
128, 1935.

Phosphobrenztraubensäure + Kreatin

⇐Kreatinphosphorsäure

+Brenztraubensäure

ト云フ Parnas ノ反應ハ Adenylpyrophosphat  
ノ存在ニ於テ透折シタ 筋抽出物ニヨリテモ行  
ハレルコトガ判ツテキル。著者ハ筋抽出物以  
外ノモノニヨツテモ之ノ反應ガ行ハレルカ否  
カラ見ル爲ニ種々ノ臓器抽出物例ヘバ 睾丸、  
腎臓、心臟、腸粘膜、脾臓、膵臓、腦、肝臓  
等ノ抽出物ヲ作り之ニ就テ Phosphobrenztra-  
ubensäure カラノ Kreatinphosphorsäure ノ  
合成ノ有無ヲ檢シタ。

ソノ結果トシテ 筋肉ニ次テ 睾丸抽出物が  
Kreatinphosphorsäure ノ合成ヲ著シク促進ス  
ルコトヲ確メルコトガ出來タ。此ノ作用ハ 辜  
丸抽出物中ノ精蟲ニ由來スルモノテ 精蟲ソレ  
自身ニ Phosphobrenztraubensäure 及ビ Kre-  
atin ヲ加ヘル時ハ Kreatinphosphorsäure ノ  
合成ガ著明ニ見ラレル。死シタ精蟲ニハソノ  
作用ハ見ラレナイ。(守山)

雜 報

學術集談會

去ル1月23日(木)、當所講堂ニ於テ 學術集  
談會ガ開催サレ。演題ハ次ノ如クデアツタ。

記

1. パッシュン氏小體ノ染色ニ關スル  
小經驗 金澤 謙一君
2. 蛇毒ノ免疫學的研究 赤塚 京治君
3. Biscoclaurin 系「アルカロイド」類  
ノ實驗的結核ニ及ボス影響ニ就テ  
(續報) 長谷川 秀治君  
富田 眞雄君  
中本 爲治郎君
4. 鼠蹊淋巴肉芽腫ノ病原體ニ關スル

研究(續報)

宮川 米次君  
三田村 篤志郎君  
矢追 秀武君  
石井 信太郎君  
岡西 順二郎君  
金澤 謙一君  
後藤 敏夫君  
山田 秀一君  
清水 重矢君

- (1) 病原體ノ温、冷、乾燥ニ對スル抵抗、  
稀釋試驗及 Virulicidin, Allergene 中  
和物質ノ檢査
- (2) 猿及「マウス」以外ノ 諸動物ニ於ケル  
病毒接種試驗

- (3) 鶏卵内ニ於ケル病原體ノ培養ニ就テ
- (4) 組織培養法ニヨル本病病原體ノ培養
- (5) 病原體ノ濾過特ニ限外濾過ニ關スル研究
- (6) 病原體ノ田村、マイヤー及ピアント  
ーヌ氏等ノ培養ニ關スル追試實驗

### 細谷、守山、山口3氏送別會

今回臺北帝國大學教授ニ榮轉セラレタル細谷省吾博士、上海自然科學研究所ニ赴任サルル守山英雄君、産業衛生研究ノ爲メ米國へ留學サル、山口正義君ノ3氏ノタメニ去ル2月6日木、午後6時半ヨリ丸ノ内、中央亭ニ於テ送別會ガ開催アレタガ、出席者多數ニテ非常ニ盛會デアツタ。席上發起人ヲ代表シテ矢追所員ヨリ挨拶ガアリ、所長ヨリ送別ノ辭、細谷博士ヨリ謝辭ガアリ、更ニ城井、工藤、岡西3博士ヨリ夫々送別ノ辭ガアリ、8時一ト先ニ宴ヲ閉ヂ、次イテ別室ニ於テ公衆衛生國際事務局委員會ニ出席シテ最近歸朝サレタル鶴見三三博士ノ1時間ニ亙ル見聞談ガアリ、最後ニ田宮所員ガ鶴見博士ノ紹介ヲ兼ねテ所懐ヲ述べタ後、9時過和氣霧々裡ニ散會シタ。

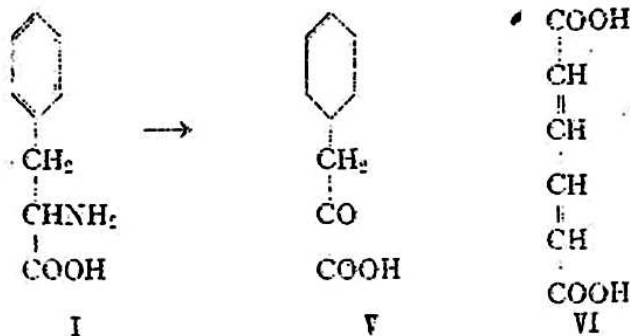
### 學友會へ寄附

- 一、金10圓59錢也
  - 一、金8圓14錢也
  - 一、金113圓48錢也
  - 一、金16圓68錢也
  - 一、金3圓88錢也
  - 一、金13圓也
- {江島 眞平君  
 {武藤 喜一郎君  
 {高木 逸麿君  
 {工藤 正四郎君  
 {川喜田 愛郎君  
 渡會 次郎君  
 草野 與平君  
 横井 鎌次郎君  
 下田 亮君

### 人事異動報告

昭和11年2月3日 傳染病研究所

發令 月日	辭令	官職	氏名
10年 12.26.		傳染病研究所業務ヲ囑託ス	鈴木 郡治
12.27.		昭和10年12月27日付願研究生退學ノ件許可ス	小林 清
11年 1. 8.		昭和10年12月26日付願研究生入學ノ件許可ス	磯 俊 六
1. 6.		長崎縣下へ出張ヲ命ス	教授 小島 三郎
1. 11.		任傳染病研究所技手	松井 守一
"		傳染病研究所業務囑託ヲ解ク	松井 守一
"		依願免本官 技手	中村 茂一
"		傳染病研究所業務ヲ囑託ス	中村 茂一
"		埼玉縣下へ出張ヲ命ス	囑託 菊池 常雄
1. 18.		任臺北帝國大學教授 敘高等官四等	助教授 細谷 省吾
"		任傳染病研究所技手	北岡 正見
"		同	山田 秀一
"		同	森下 哲夫
"		傳染病研究所業務囑託ヲ解ク	山田 秀一
"		同	森下 哲夫
"		同	北岡 正見
"		傳染病研究所業務ヲ囑託ス	井田 清
"		研究生退學ヲ命ス	井田 清
1. 31.		依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク	澤田 榮三郎



5. Macon-酸(VI)の従来 Ketogen-性がア  
ニトヒレテキタガコレハ恐ラフ 發生セル

Ammonia の影響ニヨルノデアツテ 著者ノ實  
験ヨリ Ketogen-性ヲ認メシイ(内野)。

## 雜 報

### 河本博士追悼會

故河本禎助博士ノ追悼會ハ、傳研學友會他  
40餘ノ團體ノ共同主催ニヨリ、49日忌ニ當ル  
去ル2月22日(土)午後2時カラ日本青年館  
講堂ニ於テ盛大ニ舉行サレタ。壇上正面ニ博  
士ノ肖像ヲ飾リ、父君、未亡人、2令息等ノ  
遺族列席シ、林春雄博士司會ノ下ニ宮川傳研  
所長、長與東大總長、平沼大日本體育協會副  
會長、日本生化學會柿内教授、友人中井教授、  
防長在京各團體有志福士博士、同級生松本博  
士、門下生月江博士等ノ順序ニ夫々各方面ヲ  
代表シテ追悼ノ辭ヲ述べ、最後ニ父君ガ挨拶  
ヲサレ5時閉會シタ。續イテ5時半カラ階上  
食堂ニ於テ追悼晚餐會ガ開催サレ、小島教  
授ノ挨拶ニ次イテ、湯淺宮内大臣ノ指名ニヨリ  
多数ノ人ノ追憶談ガアリ、最後ニ令息ヨリ謝  
辭ヲ述べラレ8時盛會裡ニ散會シタ。

尚長與總長及ビ宮川所長ノ追悼辭ハ次ニ掲  
載スル如クデアル。

### 河本禎助博士追悼之辭

嗚呼河本禎助君、君逝ヒテ既ニ七七、今  
日諸中院ノ命日ニ當リ、吾等一同ハ此所ニ會

シテ君ガ在天ノ英靈ヲ迎ヘ、心カラナル追憶、  
追慕ヲ恣ニシ、併セテ君ガ生前ノ交誼ニ感謝  
ノ辭ヲ捧ゲ、以テ君ガ精靈ヲ慰メタイト思フ  
テ居ルノデアリマス。定メシ君モ喜ンテ來リ  
會シ、吾等ノ微衷ヲ何時モナガラノ期ラカナ  
顔シテ受ケ納レテ呉レルコト、信ズル。

茲テ聊カ君ノ閱歷ヲ述ベルコトヲ許シテ吳  
レ給ヘ、君ハ山口高等學校ヲ經テ、東京帝國  
大學、醫科大學ニ入り、明治42年ノ暮、今ヨ  
リ丁度26年前ニ業ヲ卒ヘラレテ、直チニ醫化  
學ノ教室ニ遣入ラレ、隈川、須藤兩先生ノ許ニ  
於テ後來化學者トシテ立ツノ素地ヲ作ラレ  
タ。兩先生去ツテ後ハ柿内先生ト共ニ同教室  
ノ事ニ當ラレタガ、大正3年林春雄先生ガ、  
吾傳染病研究所ノ化學部ノ部長トナラレル  
ヤ、君ハ先生トモ常ニ深イ連絡ヲ保タレ、終  
ニ同5年ニハ來ツテ吾傳研人トナラレタ。林  
先生去ラレテ後ハ其部ノ主任トシテ、實ニ昨  
年迄約20年間、研究ニ指導ニ、心ユク許リ努  
力セラレタ。其間大正7年ニハ技師トナリ、  
11年ニハ滿2ヶ年ノ豫定ヲ以テ歐米ニ遊學セ  
ラレ、昭和2年ニハ東京帝國大學教授ニ昇進  
セラレタ。君ガ學會ニ於ケル活動範圍ハ單ニ  
ソレノミテハナイ、昭和3年ヨリ昨年迄ハ愛



知及名古屋醫科大學ノ教授ヲモ兼任セラレ、幾多ノ青年子弟ノ薰育ニモ當ラレタ。亦昨年3月ヨリハ決然立ツテ長崎醫科大學教授ヲ拜命シ、多クノ抱負ト經倫ト、期待トヲ抱イテ彼ノ地ニ赴任セラレタガ、天ハ君ニ借スニ時ヲ以テシナカツタ。爲メニ總テノ希望ハ裏切ラレテ、君ガ手腕ノ片鱗ヲモ現ハサシメズニ、終ニ新春ノ初頭、突如トシテ君ヲ奪ヒ去ツテ終ツタ。君モ嘸殘念デアツタラウ、吾等モ亦遺憾此上モナイ、學界ノ爲メ惜シミテモ尙餘リアリトハ此事ヲ言フノデアラウトスラ思フテ居ル、御一門ノ御愁傷、多クノ子弟ノ落膽思ヒヤルダニ辛イノデアリマス。

君ガ學動ハ君ガ學會ニ於ケル經歷ガ既ニ物語ツテ充分デアルト思フカラ、茲ニハ重立ツター、ニヲ語ツテ見ルノミトスル。今ヨリ約20有餘年前、吾ガ醫學界テハ「ヴィタミン」ナルモノガ誠ニ研究者間ノ寵兒トモ言フベキモノデアリ、特ニ化學界ノ人々ニトツテハ手離シ難イ研究項目ノ一デアツタ。君ガ博研人トナリ、化學部ヲ擔任セラル、ニ當ツテ矢張り第一ニ選バレタノハ此問題デアツタ。月江曹元君ト共ニ孜々トシテ倦マズ、研鑽之レ事トシテ、終ニ「ヴィタミン」Bノ結晶ヲ得ラレ、斯界ニ提供セラル、ニ至ツテ、内外ノ研究者ハ注意ノ眼ヲ時々ノデアツタ。斯クシテ君ハ研究者トシテ重キヲ加ヘルト共ニ、醫化學界ニ於ケル存在ハ確固不拔ナモノトナツタトイフテモヨカツタ。其後100餘名ニ垂々トスル門下生ト共ニ研究セラレタ事項ハ極メテ多岐ニ互リ、立派ナ業績モ數々アルガ其中テモ、君ガ學問以外ノ餘技トシ、趣味トシ、又屢々渾身ノ力ヲモ傾倒セラレタ「スポーツ」、之レニ關スル醫學的研究ガ斷然群ヲ拔イテ居ル。誠ニ近時旭日昇天ノ勢ニアル吾ガ「スポーツ」ヲ醫學的ニ研究シツ、堅固ナ歩ミヲ取ラシメル様ニシタノハ君ノ巧績ガ與ツテ大ナルモノガアルト言フテヨカラウト思フ、即チ君ハ吾國「スポーツ」ニ數々ノ寄與アルト共ニ又

「スポーツ」醫學ノ鼻祖ト言フテモ敢ヘテ過言テハアルマイ、君ガ五十有五年ノ生涯ハ決シテ長イモノデハナカツタガ、然シ君ガ殘シタ足跡ハ學ノ内外ヲ問ハズ極メテ大ナルモノガアル、吾研究所ハ君ガ不斷ノ努力ニ負フタ所モ亦誠ニ大ナルモノガアツタ、私ハ茲ニ衷心ヨリ君ニ感謝ノ言葉ヲ捧ゲタイノデアリマス。

君ニハ驚クベキ統率ノ才ガアツタ、選バレテ長崎醫科大學長ニ擬セラレタノモ、全く其所ニアツタ、私ハ茲ニ吾醫學界ニ於ケル君ノ統制振りノ一、ニヲ物語リ、併セテ再ビ衷心ヨリ感謝シタイノデアリマス。

大正14年(1925年)、即チ關東大震災ノ翌翌年吾醫界ハ敢然トシテ第6回極東醫學大會ヲ東京ニ開催シタ、之レガ恐ラク本邦ノアラユル方面ニ於ケル國際學會並ニ國際會議ノ最初ノモノデアツタト記憶スル、本會ハ現在モ世界ニ於ケル唯一ノ最大ナル、醫學全般ニ互ル國際醫學會デアル、第6回ノ大會ニハ、主トシテ東洋ニ國ヲ有スル10有餘ケ國ノ醫界ノ代表者、特ニ英、米、蘭、佛、シヤム、支那人等150有餘名ノ參會ガアツタ、之レニ本邦會員ノ多數モ加ツテ1週間ニ互ル學會、1週間ニ互ル本邦内地ノ視察旅行等々ガ盛大ニ行ハレタ、其ノ當時燒野ケ原ト化シタ東京ニ於テハ數百名ヲ容ル、ニ足ル適當ナル會場ヲ得ルニスラ非常ニ困難ヲ感ジタ、況ンヤ到ル所ニ旅舎ヲ求ムルニモ、出タリ還入ツタリスル自動車ニモ、特別列車仕立ノ團體旅行ニモ、其衝ニ當ツタモノ、苦心ハ尠ナカラザルモノガアツタガ、君ハ其際最モ難事トシタ外客ノ接待係トシテ遺憾ナク腕ヲ振ハレ、一ノ遺漏モナク、些ノ不滿ノ聲ヲ吐カセズ、總テノ會員ヲ文字通りニ満足セシメ、以テ吾醫學ヲ世界人、特ニ東洋人ニ知ラシメタコトハ今モ吾等ノ語り草トナツテ居ル、又1昨年(1934年)ニハ第9回ノ日本醫學會ガ東京ニ於テ華々シク開催セラレタ、本會ハ本邦唯一ノ最大ナル三十有二ノ連合醫學會テ、2萬有餘ノ會員ヲ

博シ。毎4ヶ年毎ニ陽春4月ヲ期シ三十二ノ學會ガ一齊ニ5日間ニ互ツテ開催セラル、ノ例トナツテ居ル。此ノ國內大會合ニ於テモ、各學會ニ對シテハ會場ノ振り當テ等ニハ、常ニ其ノ局ニ當ル者ガ尠ナカラザル苦心ヲ拂フノテアル。君ハ亦進ンテ此難局ニ當タラレ、各學會ノ當事者ニ聊カノ不平ノ念ヲモ懷カシメナカッタ如キハ、誠ニ君ノ偉大ナル統率ノ力ノ現ハレテアリ。又吾學會ニ寄與セシコトノ尠ナカラザルヲ思フテ、茲ニ亦改メテ感謝ノ意ヲ表ニスノテアル。

茲ニ君ト私トノ關係ヲ要カ連ハルコトヲ許シテ呉レ給ヘ。

私ガ君ヲ知ツタノハ約50年前、共ニ赤門學生ノ時代テ、片山國幸君ガ山高出身者ノ王者日野禎助君テアルト紹介シテ呉レタノニ始ツテ居ル。見ルカラニ明朗ナ快活ナ然カモ毅然タル態度ノ君ハ一見私ヲ引キ付ケネバオカナカッタ。其後、今ハ跡方モナイ鐵門ノ出、這入り。時計臺ノ許、燻セカッタ内科講堂、外科ノ臨牀講義等々、常ニ君ハ私ノ目カラハ離レナカッタ。頼母シイ兄貴ダナトノ親ミガ伴フテ居タ。其當時東部ノ華ト歌ハレタ帝大秋ノ陸上競技ニハ君ハ常ニ幹旋之レ勤メテ居ラレタ。春ハ滿都ノ人氣ヲ博シ、墨堤ノ花ト競ツタ吾等ノ「ボートレース」ニモ君ハ必ズ有力ナル應援團ノ一人デアツタ。後年「スポーツ」界ニ雄飛セラレル素地ハ其時分ニ既ニ多分ニ作ラレテ居タガ、然シ君ハ選手トシテハ餘リ活躍セラレナカッタ。何時モ應援者、指導者ノ地位テ重キヲ爲シテ居タノデアツタ。

君ガ父君ハ伊藤博文公、山縣有朋公等ト交リ深イモノガアツタトイフコトデアアル。君ハ幼時其雰圍氣ニ人トナラレタノデアツタ。又君ニハ維新ノ英傑高杉晋作氏ト同シ血ガ流レテモ居タト言フコトデアマツタ。隨ツテ多分ニ親分氣質ヲ有シテ居ラレ。一面學究トシテ理智ニモ富シテ居ラレタガ、燃ヘル襟ナ熱情ヲ藏シテモ居ラレ。然カモ常ニハ文字通りノ

好々爺振りデアツタガ、一旦引キ受ケタガ最後、後ハ引カヌキカヌ魂ガ躍如トシテ居タ。隨ツテ自信ニ強イコトモ屢々想像以上テ、何人ノ言ニモ耳ヲ藉サナイ位ノ剛毅ノ氣象ノ現ハレタコトモ珍ラシイコトデアハナカッタ。之レ全ク君ノ生ヒ立チノ然ラシムル所デアデアツタラウカ。

昭和5年ヨリ數年間ハ吾ガ傳研ハ誠ニ非常時デアツタ。ソレハ當時ノ所長デアラレタ長興又郎先生ガ大患ニ罹カラレ、然カモソレガ相當ニ永イ間デアツタガ爲メテ、流言蜚語ガ亂レ飛ンダ。此時ノ私ハ此非常時ニ處スルニハ所員一同堅ク結束シ、一心不亂ニ研究ニ精進スル外方法ハナイト信ジ、君ニ愛知醫科大學ヲ辭シ、傳研ニ專念シテ呉レナイカト切願シタ。加フルニ其當時、既ニ君ハ餘リ健康デモナカッタ。ソレハ獨逸留學中、毒瓦斯ノ研究ニ携ハリ、不幸ニシテ其中毒ニ罹リ激烈ナル肺炎ヲ患ツタノガ原因ヲ爲シタノダトノコトデアアル。名古屋ヲ辭任スルコトハ一面君ノ健康上ニモ善ラウト考ヘ、大手、搦手ヨリ説イタガ、君ハ斷然此ノ要求ニ應ジテ呉レナカッタ。曰ク「僕ハ夜10時半ノ汽車テ立ツト、品川テハ既ニ熟睡スル。豊橋ニ至ル頃ニハ丁度朝ニナリ眼モ覺メルノデ、ナントモ言ヘヌ具合ガヨイ。1週1度名古屋ノ別荘ニ行ク様ナモノデ、至極保養ニナル。然カモ東京ヲ離レテ靜ニ物ヲ考ヘルト善イ工夫モ出ル。之レガヤガテ傳研ノ爲ニモナルヨ」トノコトデアツタ。

一昨年ノ秋、君ガ醫學界ノ長老等ヨリノ勸誘ヲ受ケテ、長崎醫科大學長候補者トナラレタ際ニモ私ハ勿論、吾等傳研人ハ唯一人トシテ賛成ハシナカッタノミナラズ、異口同音ニ思ヒ止レト勸誘シタガ、終ニ君ハソレニ耳ヲ傾ケテ呉レナカッタ。其際君ハ「ドーモ人間ハ遅カレ早カレ死ナナクテハナラナイ。僕ガ長崎ニ行クトイフコトガ醫學界ノ爲メ日本ノ爲メニヨイトイフナラ死ヲ賭シテモ行クヨ、其ノ上彼ノ地ハ氣候ニ惠レテ居ルシ。週末ニ



ハ雲仙ノ温泉ニ浸ツテ靜カニ思フ練レバ、如何ナル難事モ必ズ解決出來ル自信ガアル。又僕ノ痼疾ノ關節痛モ必ズヤ全治スルニ相違ナイカラ、折角ダガ君等ノ忠言ハ有難ク感謝スル外ハナイトイフノデアツタ。之レガ全ク學者トシテノ自信ノ現ハレテモアリ又國ヲ思フ赤誠ノ發露デモアツタ。斯クシテ君ハ終ニ彼ノ地ニ赴コレタガ雲仙ノ黃硫泉ハ君ニハ少シモ適シナカタ。風光明媚ノ長崎ノ空氣モ君ニハ少シモ幸シナカッタ。然カモ聞ク君ハ病床ニアツテ常ニ「長崎ハ淋シイナ。ヤハリ東京ガ「善イナ」ト嘲タレタト言フコトデアル。誠ニソウデアツタラウト想像ニ餘リガアル。之レヲ耳ニシタ吾々東京人ハ、何ントカ致シタカッタノデアツタガ、千里ノ外ノ長崎。然カモ醫科大學關係者以外ニハ全ク未知ノ地デハ如何ントモ爲シ難カッタ。賑ヤカ好キデアツタ君。嗚ゾヤ淋シカッタラウト。ソレダケデモ氣ノ毒ニ耐ヘヌ。然ルニ今日此地ニ於テ。君ガ追悼會ヲ催スニ當ツテハ吾ガ醫學會ハ勿論。君ト關係深カッタ「スポーツ」其他色々ノ團體總テ四十有餘ガ打ツテ一丸トナツテ此ノ舉ヲ遂行シタノデアル。蓋シ空前ノ事デアラウ。運牒ヲ發シタ數ダケデモ正ニ3000。恐ラク會スルモノノ總テヲ一堂ニ納メルコトモ困難デアラウト思フタガ。時寒天ノ際。野外ニ於テ舉行スルコトモ如何カト思フテ生前君ト關係深カッタ此青年會館ヲ撰ンダノデアル。君ト僕トハ今ヤ幽明境ヲ異ニシテ再ビ相語ルコトモ出來ナイ。心カラナル助言モ忠言モ再ビ受ケルコトガ出來ナイ。然シ君ガ英靈ハ茲ニ來リ會シテ。此ノ盛況ヲ必ズヤ喜ンデ居テ呉レルコトト確信スル。生前多大ノ恩義ヲ蒙フシタ私及吾ガ傳染病研究所職員一同ハ茲ニ衷心ヨリ感謝ノ辭ヲ捧グルト共ニ。君ガ後嗣ノ發展ヲ祈ツテ止マナイ。君幸ニ永シヘニ安ラカニ眠ツテ呉レ給ヘ

昭和11年2月22日

傳染病研究所長 宮川 米次

## 河本禎助君追悼ノ辭

本日河本禎助君逝イテ七七ノ日ニ方リ。茲ニ追悼會ヲ營ンデ君ガ冥福ヲ祈リマスコトハ寔ニ感慨無量デアリマス。

私ハ君トハ。君ガ大學卒業以來親交ヲ續ケ來ツタモノデアリマシテ。殊ニ傳染病研究所ニ於キマシテハ。約廿年間苦樂ヲ俱ニシタノデアリマス。去月五日長崎ヨリノ君ノ訃言ニ接シマシテ。君ヲ知ル限リノ人が恐ラク左様デアツタコトト想ヒマス。私ハ實ニ異常ノ衝動ニ打タレタノデアリマス。私ヨリモ年若デアリ遙ニ健康デ元氣デアツタ君デアリマシテ。今日君ガ爲ニ私ガ追悼ノ辭ヲ述ベナケレバナラストハ私ニトリマシテハ非常ナ苦痛デアリマス。

本日ハ河本君ノ公人或ハ私人トシテノ經歷ナリ事業ナリ又功勞逸話ナリニ就イテハ。他ノ方々が種々御述ベナラレルト思ヒマスカラ。私ハ唯々人間トシテノ河本君ニ就イテ私ノ見マシタ所ヲ述ベマシテ。追悼ノ意ヲ表シ度イト思ヒマス。

君ハ寔ニ特徴ノ多イ人デアリマシタ。若シ特徴ノナイ人ヲ平凡人トイフナラバ。君ハ正ニ非凡ノ人デアリマシタ。概括的ニ申シマス。君ハ靜ノ人デナク動ノ人デアリ。積極進取ノ人デアリマシタ。退イテ守ルノデナクテ進ンテ攻ムル——之ガ多クノ場合ニ於テ君ノ事ニ處スル態度デアツタト思ヒマス。而シテ人ト事ヲ共ニ致シマス際ニ於キマシテ。難キヲ捨テ、易キニ就カウトスルノガ一般人ノ常デアリマスガ。君ハ敢然自ラ難局ニ當ツタノデアリマス。私ハ傳染病研究所ニ於テマタ日本醫學會極東醫學會或ハ體育運動關係ニ於テ許多ノ實例ヲ見テ居リマス。

河本君ハ何事ニ就テモ一家ノ見識ヲ具ヘテ居マシタ。我々ハ屢々君ノ著眼ノヨイニ敬服シタコトガアリマス。十數年前ニ「スポーツ」醫事研究會ヲ創立セラレタル如キハソノ著シイ一例デアリマシ。

而シテ君ハ同僚ト議論ヲ戰ハスコトガアリマシテモ一度對者ノ意見ニ條理ヲ見出ス時ハ虚心淡懐瀟然トシテ説ニ服シ。光風霽月ノ襟度ヲ示シタノデアリマス。其ノ事ヲ行フニ當リマシテハ、熱アリ誠アリ而シテ勇氣アリ。然モ尙和合的ナ他ノ一面ヲ持ツテ居リマシタ。其ノ功利打算ヲ排除シ利害名利ニ淡泊ナ公平無私ノ人格ト態度トハヨク議論囂々ノ際ニヨク調停ノ役ヲ務メ。已レヲ空シウシテ獻身他ニ奉シ。率先衆ヲ率キテ躬ヲ行フノ徳ト相竣ツテ。君ノ關與シタ多クノ事業ハ好成績ヲ收メ得タノデアリマシタ。

研究室ニ於テハ親シク助手ノ手ヲ執ツテ懇切ニ實驗ノ指導ニ當リ。各種ノ運動ニ於テモ亦自ラ率先シテ部員ト技ヲ練ルコトヲ心掛ケテ居ラレタ。殊ニ學生ノ訓育指導ハ君ノ最モ意ヲ注イダ所デアリマシタ。孔子ハ「知之者不如好之者好之者不如樂之者」ト云ツテ居マスカ。君ニソハ實ニ學生青年ノ訓育ヲ樂シム人ト申スベキデアリマス。君ノ忠君愛國ノ熱情ニ至リマシテハ雜誌ノ中ニ在リマシテモ事皇室ニ及ビマスト謹嚴襟ヲ正シテ同僚ヲ驚カシタコトガ一再ナラズアリマシタ。

君ハ又禮儀ノ人デアリ。然諾ヲ重ンズル人デアリマシタ。ソノ先輩同僚及ビ後進ノ愛敬人望ヲ贏チ得マシタコト。又山川先生ノ知遇ヲ得マシタコトハ君ノ信賴スルニ足ル人柄ニ因ルモノデアリマセウ。傳染病研究所ニトリマシテハ大ナル存在デアリ。研究、行政兩方面ニ於テ重要ナル役目ヲ果シマシタ。河本君ノ爲人ハ凡ソ斯ノ如キモノデアツタト思ヒマス。斯ノ人が適任者トシテ長崎醫科大學長候補者ニ推薦セラレマシタコトハ極メテ當然ナコトデアリマス。君ノ長崎赴任ハ今ニシテ願ヘハ其ノ健康ニ些カ無理デアツタカモ知レマセン。然シ乍ラ常ニ樂觀的ナ河本君ハ其ノ健康ハ氣候ノ良イ長崎ニ於テ持チ直ストイフ希望ト光明トヲ持ツテ居ラレタデアラウシ。マタ我々モ同様ノ感ヲ抱イテ居タノデアリマ

シタ。君ハ或ハ又先輩ノ知己ニ惑ジテハ身ニ多少ノ危懼ヲ抱キ乍ラモ敢然トシテ赴任シタノテハナカツタカトモ想ヒマス。果シテ然ラバ君ハ身ヲ殺シテ仁ヲ成シタ志士デアリマス。其ノ悲壯ナ心事ニ胸ヲ打タレルノデアリマス。我々ハ君ガ健康ノ恢復ヲ祈ルベカリデアリマシタ。然ルニ天壽ヲ假サス幾多ノ經綸ト抱負ト而モ之ヲ實現スルノ力ト徳トヲ抱イテ空シク逝カレマシタノハ誠ニ痛惜ニ堪ヘマセン。推薦者ノ一人トシテ私ハ一層哀悼ノ念深イモノガアリマス。然シ乍ラ常ニ男ラシカツタ君ハ其ノ天命ヲ大悟シタデアリマセウ。其ノ最後ニ於テモ亦男ラシク從容トシテ昇天セラレタコトト想ヒマス。

河本君ノ肉體ハ滅ビマシタ。然シ乍ラ其ノ國ヲ愛シ人ヲ愛シ。熱情ト正義トニ燃ヘタ模範的武士氣質ハ我等ノ胸裡ニホク生キルデアリマセウ。君ガ志ヲ後進ニ傳ヘルコトコソ君ガ靈ニ負フ我々ノ責務デアルコトヲ痛感致シマス。

河本君在天ノ靈ノ安ラカテランコトヲ祈リマス。

昭和11年2月22日

東京帝國大學總長 長與 又郎

### 學術集談會

去ル2月20日(木)午後1時カラ當所講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタガ。演題ハ次ノ如クデアル。

#### 演 題

1. 淋巴腺竝ニ諸臟器細胞成分非經口的注入ノ血液「リパーゼ」消長ニ及ボス影響 山口 正義君
2. 百日咳菌ノ特異性有毒物質ニ就テ 渡邊 一郎君
3. 「カロチノイド」ニ就テ(綜説) 内野 豊生君

### 細谷教授赴任

臺北帝國大學教授ニ榮轉サレタ細谷省吾博士ハ、同大學醫學部長ニ新任ノ三田定則博士

同道。去ル2月23日(日)午後8時30分東京驛出發赴任ノ途ニ就イタ。

### 守山氏赴任

上海自然科學研究所所員ニ任セラレタル守山英雄氏ハ去ル3月7日(土)、郷里神奈川県平塚町ヨリ出發赴任ノ途ニ就イタ。

### 山口氏出發

今般文部省在外研究員ヲ命セラレタル當所技手山口正義氏ハ去ル3月12日(木)午後零時半東京驛出發。同3時橫濱港解纜ノ後間丸ニテ渡米ノ途ニ就イタ。

### 學友會へ寄附

一金19圓14錢也

{小鳥三郎君  
矢追秀武君

一金18圓91錢也

矢追秀武君

### 人事異動報告

昭和11年3月3日 傳染病研究所

發令 辭 令 官職 氏名  
月日

1.31. 東京府下へ出張ヲ命ス

囑託 入田 貞義

2. 3. 公衆衛生特ニ産業衛生學研究ノ爲滿1年間亞米利加合衆國ニ在留ヲ命ス

技手 山口 正義

..12. 昭和11年2月12日付願研究生入學ノ件許可ス(寄生蟲) 龔 仁 濟

..18. 依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク

渡會 次郎



# 雜 報

## 學友會懇親會

第10回微生物聯合學會が當地ニ開催サレ、多数ノ會員が各地カラ上京サレタノヲ機會ニ、去ル4月1日(水)午後5時カラ丸ノ内中央亭ニ於テ學友會懇親會が開催サレタ。先ヅ休憩室裏間テ三遊亭圓歌氏ノ慢談ニ一同爆笑シタ後、宴會ニ移リ、「デザート、コース」ニ入ルヤ佐藤幹事ノ挨拶ノ後、宮川所長ヨリ所感並ニ希望ヲ述ベラレ、次イテ石原元所員ノ指名ニヨリ、所外會員ノ傳研ニ對スル腹藏無キ意見ノ開陳ガアリ、最後ニ田宮教授ガ所感ヲ述ベラレ、9時過和氣霧々裡ニ散會シタ。

## 學友會へ寄附

- 一、金 19圓 56錢也 宮川 米次君
- 一、金 35圓 78錢也 小林 清君
- 一、金 14圓 90錢也 早川 清君

## 人事異動報告

昭和11年4月2日 傳染病研究所

- | 發令月日    | 辭令                       | 官職       | 氏名           |
|---------|--------------------------|----------|--------------|
| 3. 2.   | 兼任東京帝國大學助教授叙高等官四等 臺北帝大教授 | 細谷省吾     | 補傳染病研究所所員    |
| 東京帝大助教授 | 細谷省吾                     | 陞叙高等官六等  | 助教授 羽里 彦左衛門  |
| 3. 5.   | 依願免本官                    | 技手 守山 英雄 | 任傳染病研究所技手    |
| 給入級俸    | 保坂 一郎                    |          |              |
| 3. 10.  | 依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク          | 草野 與平    | 傳染病研究所業務ヲ囑託ス |
|         |                          | 新見 正喜    | 研究生退學ヲ命ス     |
|         |                          | 新見 正喜    |              |

- 3. 26. 任傳染病研究所技手 給十級俸 橋浦 友義
- 3. 26. 傳染病研究所業務囑託ヲ解ク 橋浦 友義
- 依願免本官 技手 原 滋
- 傳染病研究所業務ヲ囑託ス 原 滋
- 3. 27. 京都府下へ出張ヲ命ス(京都市) 教授 三田村 篤志郎
- 技手 天神 智
- 同 大久保 薰
- 同 北岡 正見
- 同 渡邊 漸
- 同 金澤 謙一
- 囑託 森 和雄
- 宮城縣下へ出張ヲ命ス 教授 佐藤 秀三
- 3. 27. 宮城縣下へ出張ヲ命ス 技手 柳 澤 謙
- 囑託 井田 清
- 朝鮮へ出張ヲ命ス(仁川) 書記 高原 柳一
- 4. 1. 昭和11年3月30日付願研究生繼續ノ件許可ス(寄生蟲) 明田川 弘
- 昭和11年4月1日付願研究生入學ノ件許可ス(7細菌) 花室 憲章 (次ノ文ハ癌研究會カラノ依頼ニヨリ掲載スルモノデアル)。

## 第二回國際對癌會議

來ル1936年9月20日カラ26日マテ國際對癌聯合會デハソノ第二回國際對癌會議ヲ白耳義ノ首都 ブラッセルニ於テ開催スル。會議ハ白耳義皇帝、皇后兩陛下ヲ總裁ニ推戴シ、白耳義國政府後援ノ下ニ Lerat 博士ガコレヲ主宰シ、理事トシテハ同國癌研究會幹部ノ諸氏が

コレニ當ル。

演說ハ次ノ様ナ様ノ各方面ノ分科ニ從ツテ發表サレル。

(I) 科學的癌腫學

(1) 生物學

- A 癌原性物質
  - a 化學的物質
  - b 生長促進物質
  - c 可移植性原因體
  - d 物理的, 物理化學的因子 (病毒其他)
- B 癌發生ニ對スル素質及抵抗
  - a 遺傳因子
  - b 物質代謝
  - c 免疫

(2) 診斷學

- A 組織學ニヨル診斷ト豫後ノ判定ニ就テノ進歩
  - a 組織學的診斷
  - b 組織學的豫後判定
  - c 治療法選擇ニ於ケル組織學ノ重要性
  - d 癌原性物質ニ對スル組織反應
- B X線診斷學ニ於ケル進歩
- C 血清學的, 細胞學的診斷ニ於ケル進歩。

(3) 治療學

- A 外科的治療ノ進歩。
- B X線「ラヂウム」療法ニ於ケル進歩
  - a X線療法
  - b 「ラヂウム」療法
  - c 「ラヂウム」遠距離照射療法
  - d 「ラヂウム」生物學
  - e 測定ト術式
- C 醫藥療法ノ進歩。
  - a 化學療法      b 血清療法
  - c 臟器療法      d 食餌療法

(II) 癌ニ關スル社會事業

(1) 癌患者ノ診斷治療ノ受ケ方

(2) 不治患者ヘノ醫學的社會的援助

(3) 癌ト人口學

- A 癌ノ死亡統計ト罹患統計
- B 癌ト人種

宿題報告擔當者

Auler(Germany)	Lerat(Belgium)
Blumenthal (Yugoslavia)	Lynch(U. S. A.) Maisin.(Belgium)
Bonne(Batavia)	Mataro Nagaye (Japan)
Borst(Germany)	Pentimalli(Italy)
Cook(England)	Petroff(U. S. S. R.)
Cramer(England)	Reding(Belgium)
Deelman(Holland)	Regaud(France)
Dogliotti(Italy)	del Rio Hortega (Spain)
Dublin(U. S. A.)	Roffo(Argentina)
Dustin(Belgium)	Rondoni(Italy)
Ewing(U. S. A.)	Roussy(France)
Fischer-Wasels (Germany)	Rowntree (England)
Freund(Austria)	Schinz (Switzerland)
Gye(England)	Todd(England)
Hirszfeld(Poland)	Vies(France)
Holthusen (Germany)	Carter Wood (U. S. A.)

上記ノ中日本代表長與博士ノ報告ハ目下ニルリ滞在中ノ吉田富三氏が會議ニ出席シテ代讀スル豫定デアル。

尙上記長與博士ノ他ニ日本カラノ演說者ハ次ノ通りデアル。

O-Amidoazotoluol 飼與ニヨル大黒鼠肝癌ノ成生ニ就テ 吉田 富三氏  
注 意

- 一、會費 100 Belgas(日本金約60圓)
- 二、會員ニハ旅行, 宿舍ヲ御世話シマス, 亦刊行物ヲ差上ゲマス
- 三、會議テ使フ國語ハ英, 佛, 獨, 伊, 露,

## 西語テス

四. 原稿締切ハ 1936 年 7 月 1 日テス

五. 通信ハ下記へ

Secrétariat Général: 13, rue de la  
Presse, Brussels

## 附 記

種々ノ手續ハ 東京市豊島區西巢鴨町二ノ二  
六一五癌研究會ニテ御取次ヲシマスカラ御照  
會下サイ

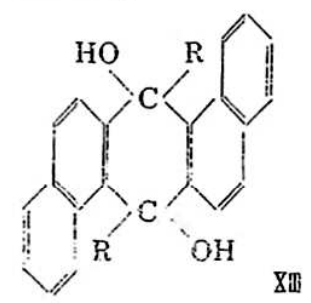


Methyl-cholanthren ノ Methyl-基が無クナツタ Cholanthren モ亦癌發生ノ作用ガアル。

Cholsäure 及ビ Desoxy-cholsäure ノ構造ヲ見ルニ側鎖ガ環狀閉合(Ringschluss)ヲ行ツテ Cholanthren ノ hydrieren サレタ物質ヲ生ズル様ナ位置ニ OH-基ヲ有シテキル。而シテ斯カル環狀閉合ヲヤツタモノガ dehydrieren サレルト Methyl-cholanthren ガ發生スルノテアルガ如クノ如キ諸變化ハ 生體內デモ起リ得ル變化デアアル。Cook(演者)ノ見解ニヨレバ膽汁酸又ハ之ニ類似ノ物質ガ 生體內デ或ル條件ノ下ニ異常的ノ分解ヲ起シテコノ爲ニ Methyl-cholanthren-様ノ物質ヲ發生シコレガ癌發生ノ原因トナルノテハナイカト言フ。

膽汁酸ト同シ環狀核ヲ有スル性-Hormon ハ動物ニ於テ 腔分泌物中ニ Eosin-嗜好性細胞ヲ出現セシメ即チ或種ノ細胞ノ増殖ヲ來ス östrogen ノ作用ヲ有スルノテアルガ此ノ點ハ腫瘍發生ノ初期ト或ル似通ツタ所ガアル。而シテ兩者共ニ多環性ノ炭素環ヲ有スル物質ニヨリテ起ル事ハ興味深ク思ハレル。尙ホ種々ノ östrogen ノ物質ガ動物テ腫瘍ヲ作ツタト

イフ報告モ屢々聞ク所デアアル。之ニ關聯シテ興味アル事實ハ (XIII) ノ如キ 9,10-Dehydro-1,2-5,6-dibenzanthracen ノ誘導體ガ強キ östrogen ノ作用アル事デアアル。



コ、テRハ Alkyl-基(Methyl, Äthyl, Propyl, Isopropyl, n-Butyl, n-Hexyl, Allyl, Cyclopentyl 等)ヲ示ス。コノ中テ Propyl-化合物ハ最モ作用ガ強ク天然ニ存スル Hormon デアル Östriol ト略々同等ノ作用ガアル。此ノ外 Diäthyl-, Diisopropyl-, n-Butyl-, Cyclopentyl-化合物等モ作用ガアルガ他ノモノニハ作用ガ無い。即チ癌發生ノ作用ガアル 1,2-5,6-Dibenzanthracen ノ分子ニ僅カナ變化ガアルト östrogen ノ Hormon ノ作用ヲ有スル物質ニ移行スル事ハ甚ダ興味深ク感セラレル。(内野)

# 雑 報

## 第 80 回講習會開講

去ル 4 月 13 日(月)午前 10 時ヨリ 所内講堂ニ於テ、第 80 回講習會開講式ガ舉行サレ、所長ヨリ一場ノ訓示ガアツタ。尙今回モ講習會出席者ノ數ガ定員ヲ超過シタノテ簡單ナ 詮術試驗ガ行ハレタ。

## 學術集談會

去ル 4 月 23 日(木)午後 1 時ヨリ 所内講堂ニ於テ學術集談會ガ舉行サレタガ、演題ハ次ノ如クデアアル。

演 題

1. 再ビバツシエン氏小體ノ染色ニ關スル小經驗ニ就テ  
金澤謙一君
2. 諸種ノ無機還元物質ノ實驗的結核ニ及ボス影響ニ就テ  
柳澤謙君
3. 年齢別「ツベルクリン」反應陽性率曲線ト年齢別結核死亡率トノ關係ニ就テ  
佐藤秀三君
4. 野兔病菌(Bacterium tularense)ニ就テ一ニ補遺  
西澤行藏君  
金子勘太郎君
5. いへだにノ發育環ニ就テ(綜説)

山田 信一郎君

土屋 三司

### 春秋會新舊會員送迎會

去ル4月30日(木)午後4時ヨリ所内地階食堂ニ於テ、春秋會新舊會員送迎會春期例會ヲ舉行サレタ。小島幹事ノ挨拶、宮川會長ノ傳研所員トシテノ覺悟ニ就イテノ訓示ノ後、檜山幹事新會員ヲ紹介シ、最後ニ二木特別會員ガ所懐ヲ述ベラレ、5時半盛會裡ニ散會シタ。

### 學友會へ寄附金

1金 71圓 25錢	宮川 米次君
1金 25圓 64錢	宮川 米次君
1金 71圓 10錢	早川 清君

### 人事異動報告

昭和11年5月2日 傳染病研究所

發令 月日	辭令	官職	氏名
4. 1.		研究生入學(ワクチン)	
		陸軍二等軍醫	出井 勝重
..		(獸疫)	
		陸軍一等獸醫	中山 富雄
..		(病理)	
		陸軍二等獸醫	市川 収
..		朝鮮へ出張ヲ命ズ(仁川)	
		技手	佐藤 久藏
..		昭和11年2月17日付 願研究生入學ノ件許可ス(検査部)	

4. 1. 昭和11年3月10日付 願研究生入學ノ件許可ス(七細菌)

陳 一 德

4. 2. 昭和11年3月31日付 願研究生繼續ノ件許可ス(化學) 川崎 治

4. 18. 昭和11年4月18日付 願研究生退學ノ件許可ス(三細菌) 永井 吉郎

.. 傳染病研究所業務ヲ囑託ス

森 藤 靖 夫

.. 伊 藤 正 雄

.. 羽 田 正 一

.. 朽 木 五 郎 作

.. 市 川 行 正

.. 中 村 孝 一

.. 降 旗 武 臣

.. 枡 内 寛

.. 村 江 通 之

.. 研究生退學ヲ命ズ(化學)

中 村 孝 一

4. 20. 茨城縣下へ出張ヲ命ズ

技師 城 井 尙 義

.. 埼玉縣下へ出張ヲ命ズ

囑託 菊 池 常 雄

4. 24. 東京府下へ出張ヲ命ズ

技手 岡 本 啓

.. 同 栗 本 珍 彦

te ト共ニ落テル。之ヲ操リカヘシ次ニ鹽酸ニ溶カシ苛性曹達テ PH 9.5 ニシテオトスコト反復數回。コノ沈澱カラ酸ト Alcol テ Calcium ヲ除去スル。時ニ沈澱ヲ促進スルタメニ無水醋酸曹達ヲ加ヘルコトガアル。次ニ水ニ溶カシ苛性曹達ヲ中和乾燥シ最後ニ餘分ノ苛性曹達ヲ Methyl alcohol テクリカヘシ除去スル。コノ方法テ得ラレタ有效成分ハ 1cc 22mg ヲ含ム原液ノ 1000 倍ノモノ 0.1cc (0.0022mg) テ常ニ二十日鼠肉腫 37 ニ著明ナ出血ヲ起シタ。(清水)

腫瘍ノ化學的研究

第 IV 報 大腸菌培養濾液中

出血ヲ起ス成分ノ性質

(Chemical treatment of tumors. IV Properties of hemorrhage-producing fraction of B. coli filtrate. Shear, M. J. Proc. Soc. Exp. Biol. & Med. 34; 325—326, April, 1936.)

前報ニヨル有效成分ヲ水ニ溶カシ真空乾燥

スルト白色結晶が殘ル。強ク熱スルト 1 部ハ焦ゲルガ大部分ハオソラク無機化合物ノ如ク變化ヲ受ケナイ。有效成分ノ 82% ハ Methyl alcohol ニトケル。之ヲ乾燥シテ水ニ入レルト大部分ハトケナイ。苛性曹達ヲ加ヘルト溶ケルガ之ヲ鹽酸テ酸性ニシテ生ジタ絮狀沈澱ヲ更ニ Alkali テトカシタモノハ出血ヲ起サナイ。18% ノ Methyl alcohol ニ溶ケナイ部分ヲ水ニ溶カシタモノハ泡立ツテルガコノ方が有效テ 0.0004mg. 出血ヲ起ス。コノ有效溶液ヲ真空乾燥スルト大部分非結晶性ノモノガ得ラレル。比較的少量ノ結晶性ノモノニハ 3 ツノ結晶形が見ラレル。有效溶液ハ biuret 反應陰性 Molisch 反應強陽性テ Apitz ノ半精製ノモノト同所見デアアルノハ面白い。吸收「スペクトル」モ検査シタガ特殊ナ所見ハナク腫瘍ニ於ケル強度ノ出血ト血管系ノ反應トガ興味アルコトデアアル。溶液ハ氷室ニ 8 週間置イテモ尙有效デアツタ。(清水)

雜 報

學術集談會

去ル 5 月 21 日(木)、當所講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレ、演題ハ次ノ如クデアツタ。

演 題

1. 「カオリン」處置血清ヲ以テスル 微毒血清反應ニ就テ 田中芳雄君
2. 大腸菌簇ノ鑑別培養法ニ就テ(續報) 手塚悦郎君
3. 淋巴腺竝ニ諸臟器細胞成分注入ノ腸液「リパーゼ」ニ及ボス影響 加藤英市君
4. 牛痘病毒ノ家鷄及ビ鳩ニ於ケル移植實驗 門脇良徳君
5. 種々ノ病原細菌ノ發育上必要ナル物質ノ分離 細谷省吾君

桑島謙夫君  
嘉陽宗永君  
小田通男君  
利部光四郎君  
6. 在リシ日ノキプテン、ダグラス(綜説) 矢追秀武君

春秋會遠足會

去ル 5 月 24 日(日)、春秋會ハ香取、鹿島、水郷巡り遠足會ヲ開催シタ。生憎ノ雨天デアツタガ、宮川所長以下約 250 名ノ参加員ハ 7 時 10 分上野驛發ノ新線臨時列車テ土浦ニ向ヒ、「アヤメ」丸ニ乗船。霞ケ浦ヲ横斷潮來ヲ經テ大船津ニ上陸。鹿島神宮ニ參拜シタ後、再ビ「アヤメ」丸テ佐原ニ到リ、香取神宮ニ參拜シテ佐原驛ニ出テ、午後 6 時 20 分同驛發ノ新線臨時列車テ午後 8 時 21 分兩國驛歸着、無事解散シタ。



尙當日ハ寫眞競技會ヲ催シ、去ル6月5日(金)成績品ヲ食堂ニ於テ展覽、入選者ニ賞與ガ授與サレタ。

學友會へ寄附

金 36 圓 95 錢也 赤塚京治君

人事異動報告

昭和11年6月2日 傳染病研究所

- | 發令月日  | 辭令官職                   | 氏名        |
|-------|------------------------|-----------|
| 5. 1. | 昭和11年4月11日付願研究生入學ノ件許可ス | 藤本三郎      |
| ..    | 陞敘高等官五等                | 助教授 矢追秀武  |
| 5. 2. | 茨城縣下へ出張ヲ命ズ             | 技師 城井尙義   |
| ..    | ..                     | 事務官 檜山兼次郎 |
| 5. 7. | 朝鮮へ出張期間ノ延長ヲ命ズ          | 技手 佐藤久藏   |
| 5. 8. | 神奈川縣下へ出張ヲ命ズ            | 技手 岡本啓    |
| ..    | ..                     | 同 栗本珍彦    |
| 5.13. | 東京府下へ出張ヲ命ズ             | 同 岡本啓     |

- |       |                        |            |
|-------|------------------------|------------|
| ..    | ..                     | 同 栗本珍彦     |
| 5.15. | 静岡縣下へ出張ヲ命ズ             | 教授 小島三郎    |
| ..    | ..                     | 囑託 小豆畑久治   |
| 5.18. | 昭和11年5月16日付願研究生退學ノ件許可ス | 松岡文雄       |
| 5.15. | 敘從六位                   | 助教授 矢追秀武   |
| 5.18. | 静岡縣下へ出張期間ノ延長ヲ命ズ        | 教授 小島三郎    |
| ..    | ..                     | 囑託 小豆畑久治   |
| 5.20. | .. (1日間)               | 教授 小島三郎    |
| 5.21. | 東京府下及埼玉縣下へ出張ヲ命ズ        | 技手 岡本啓     |
| ..    | ..                     | 同 栗本珍彦     |
| 5.29. | 任傳染病研究所看護長             | 給七級俸 小鹿島レキ |
| ..    | 任傳染病研究所藥劑手             | 給十一級俸 奥富康雄 |
| ..    | 傳染病研究所ニ於ケル看護長事務取扱囑託ヲ解ク | 小鹿島レキ      |
| ..    | 傳染病研究所業務囑託ヲ解ク          | 奥富康雄       |
| ..    | 依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク        | 坂野信雄       |
| ..    | 依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク        | 小林茂雄       |

第二十卷第五號原著高須勘次郎第一、第二、第三報正誤

頁數	行数	誤	正
671	20	第5表及ビ第6表	第6表及ビ第7表
672	11	第4表	第5表
..	14	第4表	第5表
679	14	後ノ	此ノ
682	1	反應ノ	反應度ノ
..	16	觀ルニ(卅)	觀ルニ標準成績(卅)
689	27	血清11例	血清10例
690	1	10例	9例
691	22	抗原反應	抗元反應
699	11	吸着型4例	吸着型6例
701	27	(8.1%)	(19%)
703	10	17例(81%)	18例(86%)
704	30	例中11例	例中9例
705	20	ゴトク、微弱	ゴトク(小○作、佐○千.)、微弱
706	22	第3表	第6表
711	24	抗元ニアリ乍ラ	抗元且ツ同種ノ血清ニアリ乍ラ

テタ、然シソノ説ヲ支持スル積極的ナル證明ハ未ダ多數ニハナイ。

Orr ハ局所循環障碍ヲ來ストキハ Tar 癌及 Dibenzanthracene ニヨル癌發生が促進セラル、事實ヲ認め、コノ事實が Warburg ノ説ニヨツテ了解セラル、ノヲ指摘シテキル。

著者等ハ Berenblum ノ所謂 anti-carcinogenic Substances ニ就テ、實驗ヲ試ミテキル。是等 anti-carcinogenic Substances ノ中 Mustard Gas( $\beta\beta'$ -Dichlorodiethyl sulphide),  $\beta\beta'$ -dichloro-diethylsulphone 及ビ Cantharidin 等癌發生ヲ阻止スル物質ハ、Glykolyse ヲ高度ニ減少セシムルニ反シ、呼吸作用ニハ著シキ

減少ナク、

$\beta\beta'$ -Dichloro diethyl sulphoxide. Thiodiglycol 及ビ Croton 油ノ如ク、癌發生ト何等關係ナキモノハ、Glykolyse 減少、呼吸作用ノ減少ト同程度ナルコトヲ認メタ。

コノ事實ハ前述 Warburg ノ説ヲ支持スル一新發見デアアル。

尙著者等ハ Jány and Seliei [Biochem Zeitschr. 275, 234, (1935)] が B. Coliニ就テ、毒「ガス」(Mustard gas)が Glykolyse ヲ阻止スルニ反シ、呼吸作用ハ二倍ニ増強スルト云フ報告ヲ参照シテキル。 (保坂)

## 雑 報

### 第八十回講習終了式ニ際シ 講習生並ニ全所員ニ告グ

宮川米次

#### 講習生諸君

本日茲ニ第80回講習會終了式ヲ舉行スルニ當リマシテ一言諸君ニ祝辭ヲ述べマスルコトハ私ノ欣快トスル所デアリマス。

60有餘名ノ講習生諸君ヨ、諸君ハ實ニ多クノ志望者中ヨリ嚴選セラレマシテ、此ノ講習ニ加ハラレタ方ノミデアリマスカラ、流石ニ極メテ熱心ニ、愉快ニ、3ヶ月間ヲ過サレタコトヲ拜見シマシテ誠ニ喜ビニ耐ヘマセヌ、必ズヤ各自相當ノ收穫ヲ納メラレタコト、信ジマスト同時ニ吾等ガ傳研精神モ可ナリ御會得下サレタコト、思ヒマス、加フルニ諸君ト吾傳研トノ關係ハ茲ニ新タニ結バレタノデアリマス、今後諸君ガ夫々目ザス方面ニ向

ツテ進マレルニ當リマシテ、今日會得セラレタ精神ヲ充分ニ發揮セラレルコトヲ希望致シマス。吾ガ傳研精神ヲ一言ニシテ盡シマスト、誠意ノ努力トイフコトデアリマス、諸君ノ専門、諸君ノ目的ハ夫々異ツテ居リマセウガ、何レノ方面ニ於テモ、事ニ當ツテハ常ニ此ノ精神ノ發露ヲ望ムノデアリマス、此ノ發露ガアルヤ否ヤガ、ヤガテ、各人ノ後來ヲトスルコトニナルト信ジマス。尙吾々相互ハ今後益々交通連絡ヲ密ニシマシテ御互ニ其道ノ第一人者タラント心掛ケ、誠意ノ努力ヲ致シテ、國家ノ爲メ、科學ノ爲メ、延ヒテハ人類ノ爲メニナリタイト願フモノデアリマス。

科學ノ進歩ノ速カナルコトハ今更申ス迄モアリマセヌ、一日怠レバ一日後レルノデアリマス。現在吾ガ日本國ニハ夫々立派ナ専門雜誌ガ出來テ居リマス、其ノ雜誌ノ二、三、特ニ信用アルモノ、ソレ

ヲ徹底的ニ讀破シ、了解シ、會得シ、吾物ニスルコトハ誠ニ大切ナコトデアリマス。其際新シイト思ヒマシタコトハ、必ズ其要點ヲ書留メテオキ、決シテ讀ミ放シニシナイコトデアリマス。又行住坐臥ノ内ニ心付イタコトハ、直チニ誓キ止メテオキテ、之レヲ後ニ整理シテオク様ニモシタイノデアリマス。之レガ吾等ガ日常ノ最モヨイ指導者ノ一ツデアリマス。ソレデモ尙疑問ガアリ、難解ノ事件ガ發生シタナラバ、御遠慮ナク御問ヒ合セテ願ヒタイ。吾等傳研人ハ夫々研究シテ其解決ニ當ツテ行キタイト思フテ居リマス。

尙諸君ニ希望スルコトノ一ツヲ付ケ加ヘテ置キタイ。

各地ニ於テ、屢々夫々特有ナ地方病ガアラウト思ヒマス。或ハ何カ突發的ニ發生スルコトモアリマセウ。之レヲ捉ヘテアラユル方面ヨリ研究シ、其ノ病原ニ、治療ニ、豫防ニ努力シテ見タイノデアリマス。又時ニ應ジテ吾々ニモ助力ヲ申込マレタイノデアリマス。最近モ沖繩縣ノ長官及警察部長ガ同道デ來所セラレテ、同縣ニ猖獗ヲ極メ、害毒ノ慘澹タルモノガアル「フィラリア」病ノ撲滅ニ關シテ助力ヲ申込マレ。近々石井博士ニ御出張ヲ願ハスコトニナツテ居リマスガ如キガソレデアリマス。由來地方病ノ撲滅ニカヲ注グコトハ色々ノ點ヨリ極メテ有意義デアリマシテ、其ノ地ノ住民ニ恩惠的デアルノミナラズ、科學的ニモ極メテ興味アル事柄ガ多イノデアリマス。地方病ハ勿論濁リ傳染病ニノミ限ツタモノデアリマセウ。寄生蟲病モアリ、養榮ノ不良ニ因スルコトモアリ、原因ノ不明ナモノモ多クアルノハ申ス迄モアリマセウ。之レ

ガ研究ニヨツテ、其ノ撲滅ヲ期スルコトガ出來タトシタナラバ、當ニ學問上ノ興味ノミニ止マラナイコトハ今更申ス迄モアリマセウ。此點ヲ特ニ諸君ハ考慮ノ内ニ置イテ頂キタイト思ヒ申添ヘル次第デアリマス。

### 傳染病研究所所員諸君

講習終了式ノ如キ極メテ嚴肅ナル集合ノ機會ニ際シマシテ、諸君ニ特ニ御集リテ願ヒマシテ一言所懷ヲ述ベサセテ頂キマス。吾々ガ此ノ新廳舎ニ移リマシテヨリ正ニ滿2ケ年ノ歲月ヲ經マシタ。茲ニ既往ヲ回顧シ、又近時傳研ノ組織ヲ聊カ變更致シマシタニ就イテ、私ノ考ヲ御話シ申シテ、充分ノ御了解ヲ得、益々本所ノ使命ヲ遂行シ、以テ向上發展シテ行キタイト希望シテ居ル次第デアリマス、

### 傳研改組ノ要點

從來本所ノ廳舎ハ個々別々ニ極メテ連絡惡ルク建テラレテ居マシタ。ソレハ震災等ノ爲メノ應急ノ處置トシテ誠ニ止ムテ得ナカッタノデアリマシタ。ソレニ係ラズ本所ノ事業ハ年ト共ニ發展シ、學部ノ數モ次第ニ多クナリマシテ、最近ハ19學部ニ分レル様ニナツタノデアリマスガ、一昨年幸ニ新廳舎ノ大半ガ完成ヲ告ゲマシテ、各部ノ者ガ文字通り一家ニ住フコトニナリマシタ。私ハ新廳舎ニ移轉ト同時ニ組織ノ變更ヲ致サウト思ツタノデアリマシタガ、餘リニ急激ノ變化モ好マシクナイト考ヘ、吾々ガ多少現在ノ「アパートメント」生活ニ慣レタ後ニ、言ヒ換ヘルト、環境ニ一程度順應シ得タ時期ニ、改組ヲ斷行スルガヨイト思ヒマシテ、其期ノ來ルヲ待ツテ居タノデアリマス。吾々ノ「アパートメント」生活モ大體型ニ嵌ツテ參ツタト存ジマス。即チ今



ヤ本所ノ組織變更ヲ決行スベキ最良ノ時期ノ到來ト考ヘ、今春以來、本所ノ主腦部諸君ト共ニ色々苦心シテ、茲ニ先般御目ニ掛ケタ様ナ新組織ガ出來アガツタノデアリマス。其要點ヲ申シマスト、第一研究部ヨリ第八研究部及診療部ノ九研究部ヲ設ケマシテ、從來ノ學部ノソレヨリハ遙カニ大キナモノニ致シマシテ19學部ヲ半藏シタノデアリマス。各研究部診療部ニハ部長ヲ置キ教授級ノ人ヲソレニ當テルコトニ致シマシテ其ノ下ニ從來アリマシタ主任ヲ配シタノデアリマス。此外特種ノ研究ヲ行フ爲メニ、特別研究室ヲ設ケマシタ。之レハ所長ニ直屬スルコトニ致シ、其ノ關係ハ從來ト同様デアリマス。此ノ特別研究室ハ現在4個アリマス。此ノ改革ヲ致シマシタ趣旨ノ要點ヲ御話シ致シタイ。各研究部ハ從來ノ學部ヨリモ何レモ大キクナリマシタ。其結果必然的ニ人的物的ニ從來ヨリモ多クナツタコトハ申ス迄モアリマセヌ。之レニ附隨シテ各研究部ノ豫算モ多クナリマシタ。各部ハ、部長ノ權限ニ於テ自由ニ甲ヨリ乙ニ融通セラレルコトガ出來ルシ。又人的ニモ可ナリ都合ヨク自由ニ協働スルコトガ出來ルト信ジマス。從ツテ研究員ノ配置、研究費ノ分配等モ出來得ル限り平衡ヲ保ツコトガ出來ル様ニナリ。繁閑ノ釣り合モ可ナリ緩和セララルコト、信ジマス。近ク廳舎ノ東半モ完成スル域ニ進ンデ居リマスカラ、其期ニ於テ、各部ノ業務ノ上ニモ多少變更ヲ致スノガヨイト思ツテ居リマス。今回ノ改組ハ本所トシテ空前ノ事デアリ、之レヲ實行スルニ精神的、物質的ニ其初メハ多少ノ不便ヲ感ズルコトガアルヤニ思ハナイノデアリマセヌガ、假スニ時ノ力ヲ以テスレバ必ず

ヤ此ノ改組ガ名案デアツタコトヲ謳歌スルニ至ルト確信スルモノデアリマス。諸君須ラク小乘的ノ見解ヲ棄テ大乘的ノ信念ニ就イテ、本所ノ益々發展センコトニ誠意ノ努力ヲ盡サレタイノデアリマス。

傳染病研究所ノ使命トハ何ンゾヤ、

茲ニ於テ私ハ本所ノ使命ヲ願ミタイノデアリマス。

本所ノ使命ヲ官制ノ定ムル所ニヨツテ申シ上ゲテ見マセウ、其ノ第二條ニ傳染病研究所ハ傳染病其ノ他病源ノ檢索、豫防治療方法ノ研究、豫防消毒治療材料ノ檢査、傳染病研究方法ノ講習痘苗其他細菌學的豫防治療品ノ製造及檢定ニ關スル事務ヲ掌ル、トアリマス。之レテ尙少シク申シテ見マスナラバ、病源ノ檢索、治療豫防法ノ研究、諸種ノ檢査、製造及講習ニ五大別スルコトガ出來マス。ソシテ其ノ何レヲ遂行スルニ致シマシテモ、研究的態度ヲ離レマシテハ決シテ満足ノ結果ハ得ラレマセヌ。病源ノ檢索、治療豫防ノ研究ハ申スニ及バズ、檢査、製造作業ト雖モ研究的ニ常ニ新ラシイモノ、ヨリヨイモノヲトノ方針ノ許ニ進マナケレバ、忽チ人後ニ落テテ終ヒマス、80回ニ及ブ講習ヲ行フニ當リマシテモ、吾々ハ毎回其所ニ新ラシ味ヲ出ス様ニ工夫シテ來タノデアリマス。本所ノ講習會ガ年ト共ニ志望者ノ數ヲ増シ、講習終了者ヨリ感謝ノ辭ヲ聞クコトノ多クナツタノモ決シテ偶然デハアリマセヌ。之レヲ要スルニ本所ノ命ゼラレタル使命ニハ色々アリマスガ、一言ニシテ盡スト廣ク醫學ノ研究ヲ爲スニアルト申シテ差シ支ヘアリマセヌ。ソシテ吾々ノ平素ノ態度ハ何事ニ當ツテモ研究的デナケレバナリマセヌ。



斯クアツテコソ、本所ノ使命ガ完全ニ達成セラレルノミナラス、其ノ發展ヲ期スルコトモ出來ル譯デアリマス。ソシテ又本所ノ所員ニハ少シモ差別的待遇ハアリマセヌ、又アツテハ相成リマセヌ。

大研究ハ大研究機關ヨリ、

現在何レノ方面ノ研究ニ於テモ同様デアルト思ヒマスガ、ワケテモ自然科學ニ於テハ到底一人ノ力ダケデハ大研究ハ出來ナクナリマシタ、即チ大研究ニハ常ニ大ナル力ガ必要トナリマシタ、ソレハ人的物的ニ強イ力ガ必要デアル、言ヒ代ヘルト大キナ力ガナケレバ大キナ結果ガ生レヌト言フコトデアリマス。此意味ヨリシテ幸ニモ吾傳研ハ1年1年ト其ノ力ガ加ハツテ居リマス、本所ノ豫算モ年ト共ニ増加シ、今ヤ正ニ其ノ昔ノ約4倍ニ達セントシテ居リマス、所員ノ總數モ500人ニ及バントスル有様デ、誠ニ文字通りノ一大研究機關トナツタノデアリマス、今日ノ狀況ヨリシマスレバ、百萬圓ノ豫算ヲ要スルコトモ決シテ遠イコトデアリマスマイ、廳舎増築ノ必要ニ迫ラル、コトモ火ヲ睹ルヨリ明カナルモノガアルト信ジマス、諸君ト共ニ欣快ニ耐ヘマセヌ、私ハ茲ニ自ラ顧ミテ、常ニ外觀ノ莊嚴ニ満足シ、宏大ヲ誇ツテ居タノミデハ満足ガ出來マセヌ、正ニ其ノ内容ガ、此ノ外觀ニ相伴ハナクテハナリマセヌ、斯ル意味ヨリシテ從來動々トモスルト分レ勝チデアツタ各學部ヲ打ツテ大團結トナシ得ル様ニ、茲ニ努メテ大ナル研究部ヲ作リマシタ、必然的ニ各研究部ノ發揮シ得ル能力ハ大ニ加ツタ次第デ、其結果ニハ必ズヤ見ルベキモノガアラウト期待シテ居ルノデアリマス。過般ノ主任會議ニ於テ新組織ヲ滿場一致可決シ、即時斷行スル

コトニナツタノデアリマス、諸君ニ於テモ其意ヲ充分御了解下サツテ、益々本所ノ使命ノ達成、發展ニ御協力下サランコトヲ切望シテ止ミマセヌ。

人生ハ力ナリ、

嘗テ原敬氏ハ政治ハ力ナリト喝破セラレタコトガアリマシタガ、獨リ政治ノミナラス、人生ハ誠ニ力デアリマス、人事百般之レ力ノ現ハレニ外ナリマセヌ、大ナル力ヲ持ツテ居リマスモノハ自然大ナル結果ヲ齎ラシマス、燃ユルガ如キ愛所ノ發露ハ必ズ珠ヲ生ミマス、之レニ反シテ氷ノ様ナ冷タイ心デハ、決シテ溫イモノハ生レマセヌ、諸君、人生ハ力デアリ、熱ノ現ハレデアルト思ツテ頂キタイ。

昨年以來私ハ月ニ1回宛、全所ノ各員ニ親シク其研究室ニ於テ御面談ヲ願ヒ、諸君ノ研究振リヲ拜見シ、又色々ノ新所見ニヨツテ啓蒙セラレ、加フルニ諸君ノ研究ニ對シテ理解ヲ深メヤウト努力シテ參ツテ居リマス、何分時間ノ關係上、約200人ニ近イ研究員諸君ヨリ一々詳シク研究狀況ヲ承ル暇ガアリマセヌガ毎回大體方針ヲ樹テ、御尋ネスルコトニ致シテ居ルノデアリマス、斯クシテ諸君ノ研究ニ對シテ私自身ガ精神的竝ニ物質的ニ出來ルダケ協力シヤウト思ツテ居ルノデアリマスト同時ニ諸君ニ於テモ總テニ於テ誠意努力、互讓協調ノ大精神ヲ充分ニ發揮シテ頂キタイノデアリマス、斯クシテ傳研ハ完全ニ打ツテ一丸トナリ、大研究ニ邁進シテ、名實共ニ世界第一ノ醫學研究所トナリタイノデアリマス。

第80回ノ講習會ノ終リノ式ニ當リマシテ、講習生諸君ニ吾ガ傳研ナルモノガ如何ナルモノカノ觀念ヲ新タニシテ頂キタイシ、又吾等ハ如何ナル方向ニ進ンデ居ルカヲモ充分ニ了解シテ頂キタイト

思ツテ、特ニ此機會ヲ選ンデ、所員諸君ニ傳研改組ニ對スル私ノ抱負ヲ申シ述ベマシタ次第デアリマス。傳研所員ハ申スニ及バズ、講習生諸君ヨ、諸君ハ今日ヨリ完全ニ吾傳研ノ同窓生ノ一員デアリマス、之レヲ終生ノ誇リトナル様ニ夫々ノ方面ニ御努力御發展ヲ願ヒタイ。之レ獨リ諸君ノ爲メノミデハアリマセヌ。傳研ノ名譽トナリ、延ヒテハ國家、人生ノ爲メトモナルノデアリマス。

昭和11年7月11日

羽里助教授歸朝

在外研究中デアツタ本所所員助教授羽里彦左衛門博士ハ去ル6月17日(水)横濱入港ノ後間丸テ無事歸朝セラレタ。

學術集談會

去ル6月23日(木)、當所講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレ、演題ハ次ノ如クデアツタ。

演題

- 「ゲルトネル菌屬及ビ「デルビイ菌ニ就テ 前田 幸雄君
- 腸チフス患者尿中ニ出現スル免疫元性特異物質ニ就テ並ニ「チフス菌ヨリ得タル特異物質ニ對スル患者血清ノ沈降反應ニ就テ(第一報) 密田 捷君
- 「エクトロメリア病毒ニ就テ(其一) { 追 秀武君  
金 澤 謙一君  
中 神 清 一君
- 本邦ニ於ケル傳染病流行ノ時系列變化其一、趨勢變化ニ就テ 山岸 精實君
- 酸化還元電位色素ノ破傷風毒素ニ及ボス光力學的影響 西村 治雄君
- 結核菌ノ非抗酸性及ビ其ノHomogene Emulsionニ關スル研究 { 長谷川 秀治君  
東 風 睦之君
- 結核ニ於ケル補體結合反應及ビ凝集反應ニ關スル研究 { 長谷川 秀治君  
東 風 睦之君

8. 病原細菌ノ發育ニ必要ナル物質ノ分離(第三報)

{ 細谷 省 吾君  
桑島 謙 夫君  
嘉陽 宗 永君  
利部 光 四郎君  
小田 通 男君

9. 「ゲルトネル氏菌菌體ヨリ得タル特異性免疫元性ヲ有スル有毒物質ニ就テ(第一報)

{ 細谷 省 吾君  
進 藤 二君  
門 馬 義君

第80回講習會終了式

去ル7月11日(土)、當所講堂ニ於テ第80回講習會終了式ガ舉行サレ、63名ノ講習終了者ニ講習證書ガ授與サレ、所長ヨリ講習生、職員並ビニ研究生ニ對シテ別項所載ノ如キ告辭ガアツタ。

本所職制改正

此度本所テハ職制ヲ次ノ如クニ改正シ7月ヨリ實施スルコト、ナツタ。

傳染病研究所職制表

名 稱	部 長	主任	擔任業務
第一研究部	田 宮	田 宮 羽 里	各主任ノ 業務擔任 現在ノ 通リトス
第二研究部	西 澤	西 澤 細 谷	
第三研究部	城 井	城 井	
第四研究部	小 島	小 島	
第五研究部	三 田 村	三 田 村 宮 川	
第六研究部	所長管掌	内 野	
第七研究部	佐 藤	佐 藤 矢 追	
第八研究部	高 木	高 木	
附屬醫院	院長宮川	宮 川	
特別研究室			
昆蟲學研究室	} 所長 直屬	山 田	
疫學研究室		野邊地	
食品防疫研究室		遠 山	
精製痘苗研究室		矢 追	
事務部	檜 山	檜 山	

學友會へ寄附

1金13圓13錢 山田信一郎君

人事異動報告

- 昭和 11 年 7 月 2 日 傳染病研究所
- | 發令<br>月日 | 辭令                   | 官職    | 氏名        |
|----------|----------------------|-------|-----------|
| 5.30.    | 委託研究生退學(四細菌)         |       |           |
|          |                      | 警視廳委託 | 武井 銳 司    |
| 6. 1.    | 同 入學(同)              | 同     | 吉水 元三 郎   |
| ..       | 樺太へ出張ヲ命ス(小沼へ)        |       |           |
|          |                      | 技手    | 大久保 薰     |
| 6. 2.    | 昭和 11 年 5 月 25 日付願   |       |           |
|          | 研究生入學ノ件許可ス           |       |           |
|          |                      | (診療部) | 坂野 信 雄    |
| ..       | 同                    | 同     | 小林 茂 雄    |
| 6. 5.    | 依願免本官                | 技手    | 大久保 關     |
| ..       | 傳染病研究所業務ヲ囑託ス         |       |           |
|          |                      | (診療部) |           |
| ..       | 依願傳染病研究所看護婦養成業務囑託ヲ解ク |       | 上野 慧 賢    |
| 6. 8.    | 樺太へ出張ヲ命ス(小沼へ)        |       |           |
|          |                      | 教授    | 三田村 篤志郎   |
| ..       | 千葉縣下へ出張ヲ命ス(一ノ宮       |       |           |
|          |                      | 學園へ)  | 教授 佐藤 秀 三 |
| ..       | 同                    | 技手    | 栗本 珍 彦    |
| ..       | 同                    | 技手    | 川喜田 愛 郎   |
| 6. 9.    | 微生物學研究ノ爲滿 2 年間佛      |       |           |
|          | 蘭西國ニ在留ヲ命ス(文部省在       |       |           |
|          | 外研究員)                | 技手    | 高橋 義 夫    |
| 6.10     | 依願傳染病研究所業務囑          |       |           |
|          | 託ヲ解ク(診療部)            |       | 戸田 又 生    |
| ..       | 昭和 11 年 5 月 18 日付願   |       |           |
|          | 究生入學ノ件許可ス(同)         |       |           |
|          |                      |       | 戸田 又 生    |
| 6.17     | 歸 朝                  |       |           |
|          | 文部省在外研究員             |       | 羽里 彦左衛門   |
| 6.18.    | 賜本俸八級俸               | 教授    | 田宮 猛 雄    |
| ..       | 賜本俸八級俸               | 同     | 佐藤 秀 三    |
| ..       | 本俸十級俸下賜              |       |           |
|          |                      | 助教授   | 矢追 秀 武    |
| 6.23.    | 東京府下へ出張ヲ命ス           |       |           |
|          | (全生病院へ)              | 囑託    | 八田 貞 義    |
| 6.25.    | 神奈川縣下へ出張ヲ命ス          |       |           |
|          | (長濱檢疫所へ)             | 技手    | 栗本 珍 彦    |
| ..       | 同                    | 同     | 川喜田 愛 郎   |

Timothy Bacillus, leprosy Bacillus ヨリ分離セル d-eicosanol-2, d-octodecanol-2 ノ2種ノ新シイ Alcohol が分離セラレタルコトハ、本欄ニ既ニ紹介シタ如クデアアルガ、同様ノ Alcohol ハ鳥型結核菌カラモ分離セラレタサウデアアル(未發表)。

併シ人型結核菌カラハコノ Alcohol ヲ分離スルコトハ出來ナイ。

Phthiocerol ハ  $[\alpha]_D = -4.8^\circ$  テ、ソノ熔融

點、73—74°。

ソノ構造ハ、 $C_{34}H_{67}(OH)_2OCH_3$  又ハ  $C_{35}H_{69}(OH)_2OCH_3$  テ、2ツノ Hydroxyl-屬ト、1ツノ Methoxyl-屬ヲ有ツテキル。

Stendal (Compt. rend. acad. [98, 1549, (1934)]ガ、人型結核菌カラ分離セル、Phytoglycol ( $[\alpha]_D = -4.2^\circ$ 、熔融點  $73^\circ$   $C_{26}H_{54}O_2$ )ハ、今回著者等ガ分離セル Phthiocerol トハ、同一ノモノト想定セラル。(保坂)

## 雜 報

### 學友會へ寄附

1金 48圓 97錢也	前 田 幸 雄君
1金 15圓 77錢也	柳 澤 謙君
1金 14圓 16錢也	細 谷 省 吾君
1金 5圓 18錢也	細 谷 省 吾君
1金 24圓 47錢也	加 地 信君 川 喜 田 愛 郎君 工 藤 正 四 郎君
1金 5圓 94錢也	門 脇 良 徳君

### 人事異動報告

昭和11年8月4日 傳染病研究所

發令 月日	辭 令	官職	氏名
6.27.	北海道へ出張ヲ命ズ (札幌へ)	教授	小 島 三 郎
" "	" "	技師	遠 山 祐 三
" "	" "	技手	山 岸 精 實
" "	" "	同	宮 本 正 治
" "	" "	囑託	安 川 隆
" "	" "	同	鐵 本 總 吾
7.11.	愛知縣下へ出張ヲ命ズ		

(農學部水産實驗所)

	教授	宮 川 米 次
" "	事務官	檜 山 兼 次 郎
7.14.	研究生退學	小 林 茂 雄
7.15.	講習主任ヲ命ズ	
	教授	小 島 三 郎
" "	同 主任ヲ免ズ	
	同	佐 藤 秀 三
7.16.	依願免本官	技手 塚 原 國 雄
" "	傳染病研究所業務ヲ囑託ス	
	同	人
" "	依願解囑	中 村 茂 一
" "	研究生入學	中 村 茂 一
7.25.	沖繩縣下へ出張ヲ命ズ	
	囑託	石 井 信 太 郎
7.27.	岡山縣下へ出張ヲ命ズ	
	教授	三 田 村 篤 志 郎
" "	助教授	羽 里 彦 左 衛 門
" "	囑託	森 和 雄
" "	"	細 井 輝



# 雜 報

## 高橋義夫氏渡佛

先般佛國政府招聘留學生試験ニ合格シタ當所技手高橋義夫氏ハ去ル8月27日(木)横濱驛出發、9月2日(水)神戸港解纜渡佛ノ途ニ就イタ、

## 學友會へ寄贈

- 1金 53圓04錢也 加藤英市氏
- 1金 134圓34錢也 柏木正章氏
- 1金 9圓46錢也 細谷省吾氏
- 1金 12圓84錢也 細谷省吾氏

## 人事異動報告

昭和11年9月2日 傳染病研究所

- | 發令月日  | 辭令       | 官職     | 氏名      |
|-------|----------|--------|---------|
| 7.30. | 研究生退學    |        | 高麗日出男   |
| 8.6.  | 兼任内務技師   |        | 勝俣稔     |
|       |          | 叙高等官三等 |         |
| ..    | 依願免本官茲兼官 |        | 技師 内野仙一 |

.. 新潟縣下へ出張ヲ命ス

助教授 内野豊生

8.10. 委託研究生入學(附屬醫院)

東京醫學專門學校教員 木村政長

8.11. 岡山縣下へ出張ヲ命ス

技師 山田信一郎

..13. 愛知縣下へ出張ヲ命ス

技師 城井尙義

..21. 福岡及佐賀ノ二縣下へ出張ヲ命ス

技師 城井尙義

..22. 朝鮮へ出張ヲ命ス

教授 佐藤秀三

..27. 佛國巴里市へ出發

文部省在外研究員 高橋義夫

8.20. 陸軍軍醫學校研究部ノ業務ヲ囑託ス

教授 宮川米次

.. 陸軍軍醫學校研究部ノ業務ヲ囑託ス

助教助 細谷省吾

## 正 誤 表

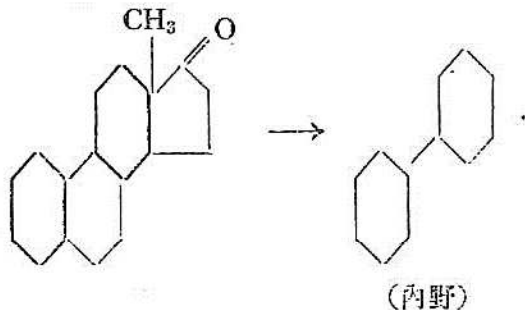
百日咳菌ニ關スル研究 渡邊一郎

實驗醫學雜誌. 第二十巻. 第八號. (昭和11年8月20日發行)

頁	行	誤	正
1372	30	昭和6年	昭和9年
1378	7	内 K 株	内 K <sub>5</sub> 株
1379	1	表示スルガ如シ	表示スルガ如シ)
..	2	肺炎無カリキ)	肺炎無カリキ
1380	12	試ミニ	三字ヲ抹消ス
1381	8	Husten platte ノ方法	Husten platte ノ方法 <sup>(20)</sup>
..	18	K <sub>15</sub>	K <sub>5</sub>
1384	18	動物百日咳菌	動物型百日咳菌
1385	27	陰性ナリヤ	陰性ナリキ
1397	第12表	第2回(後欄ノ)	第3回
1426	11	立場ニ	立場ハ

20卷(10号) 1936年

コレが本當ノ oestrogen ノ作用アル物質デア  
ラウト言フ。例ヘバ Oestron ハ次ノ如ク分解  
セラルレバ Diphenyl-誘導體ニナリ得ル。



### 新刊紹介

Albert Mathews 著: Principles of  
Biochemistry. 1936. pp. 512.

本書ノ著者ハ Cincinnati 大學ノ生化学教授。  
米國ニ於ケル生化学ノ教科書トシテハ Stand-  
ardwork トシテ最モ廣ク愛讀サレテキル  
Textbook of Physiological Chemistry ノ著者  
デア。著者ハ生化学ノ講義ニ従事スル事 40  
年ニ及ブ老大家テ其ノ著書ハ此ノ長年月間熱  
心ニ學生ヲ指導シタ努力ノ結晶デア。唯従  
來ノ Textbook ハ可ナリ大部ナモノテ限ラレ  
タ短日月ノ間ニ生化学ノ概略ヲ修得セントス  
ル學生ニ取ツテハ甚ダ不適當デアツタ。今度  
出版サレタ Principles ノ方ハ卷頭ニ Dedicated  
to All Students of Medicine ト記サレテアル  
事ヨリモ明カナル如ク著者が若キ醫科學生ノ  
要望ヲ痛感シテ専ラ學生ノ理解ヲ主眼トシテ  
書カレタモノテ學生ノ参考書トシテ誠ニ手頃

ナモノデア。其ノ内容ヲ見ルニコレモ外装  
紙ニ An Entirely New Shorter "Mathews"  
ト銘打ツテアル如クデアツテ従來ノ Textbook  
ヲ改訂シ壓縮シタルモノテハ無ク全般ニ亙  
テ最新ノ知見ヲ取り入レ全ク新ラシク書き直  
サレタ up-to-date ノ書ト言フ事ガ出來ル。説  
ク所ハ主トシテ基本的ノ部分即チ糖質、脂  
質、蛋白質等ノ化学的性質及ビ其ノ正常時並  
ビニ異常時ノ代謝等ニ重キヲ置キ應用方面例  
ヘバ營養等ノ記載ハ割合ニ簡單デア。最近  
急速ノ進歩ヲナシタ Vitamin ヤ Hormon ノ  
事も可ナリ詳シク述べテアル。

序文ニハ生化学ニ特ニ興味ヲ有スル學生  
ノ爲ニドonna書ニヨリ更ニ勉強シタラヨイカ  
文獻ノ指針ガ簡單ニ示サレテアル。又序文ノ  
結尾ニハ著者が 40 年前ニ獨逸ノ Marburg ニ  
於テ故 Albrecht Kossel 氏ト共ニ始メテ生  
化学方面ノ研究ニ志シタ青年時代ヲ追憶シテ著  
者が敬愛セル親友 Kossel 氏ノ學界ニ於ケル  
業績ト學問ニ對スル實直、純真且ツ熱血的ノ  
態度ヲ紹介シ、又 Kossel 氏ノ後繼者タル Hop-  
pe-Seyler 氏ノ "by courage and faith" ヲ  
Motto トシテ研究ニ邁進シタ丁度 Pasteur ノ  
模ナ學者トシテハ模範的ノ生涯ニ言及シテ若  
キ學徒ヲ鞭撻シテキル。要スルニ本書ハ學生  
諸君ニ取ツテ好キ参考書ト考ヘラレル。

(内野)

## 雜 報

### 第 81 回講習會開講式

去ル 9 月 14 日(月)午前 10 時ヨリ當所講堂  
ニ於テ、第 81 回講習會(公衆衛生學)開講式ガ  
舉行サレ、所長ヨリ訓示ガアツタ。

### 學術集談會

去ル 9 月 24 日(木)午後 1 時ヨリ當所講堂ニ  
於テ學術集談會ガ開催サレ、演題ハ次ノ如ク

デアツタ。

### 演題

1. ウェルチ氏瓦斯壞疽菌ノ免疫學的研究(第  
1 報) 洗滌加熱セラレタル菌體ノ注射  
ニヨリテ成立スル免疫ニ就テ  
小田 通男君
2. Novy 氏惡性水腫菌感染豫防ニ關スル實

驗的研究(第1報) 高田 周平君

3. 狂犬病病毒ノ培養ニ就テ 金澤 謙一君

4. 馬ノ傳染性膿疱口炎毒ニ關スル實驗  
{城井 尚義君  
安藤 啓三郎君

5. 癩ノ補體結合反應ニ就テ  
太田原 豊一君

6. 日本流行性(夏期)腦炎病毒ノ免疫學的研  
究  
{三田村 篤志郎君  
北岡 正見君  
渡邊 漸君  
大久保 薫君  
天神 智君

7. 「セントルイス」流行性腦炎病毒(「ウエプス  
ター」ノ第三病毒株)ト日本流行性腦炎病  
毒トノ比較研究. 流行性腦炎ノ多元性ニ  
就テ  
{三田村 篤志郎君  
羽里 彦左衛門君  
北岡 正見君

8. 日本流行性腦炎免疫血清ノ實際的應用ニ  
關スル研究  
{三田村 篤志郎君  
羽里 彦左衛門君  
北岡 正見君

9. 日本流行性腦炎病毒ニ感受性ヲ有スル動  
物種ニ就テ  
{三田村 篤志郎君  
北岡 正見君  
大久保 薫君  
天神 智君

10. 日本流行性腦炎患者材料ヲ家兎辜丸内ニ  
累代移植シタ際ニ分離サレタ一濾過性病  
毒ニ就テ  
{三田村 篤志郎君  
北岡 正見君  
渡邊 漸君  
大久保 薫君  
天神 智君

學友會へ寄附

一金 66圓03錢 渡邊 一郎君  
,, 15圓31錢 高崎 壽市君

,, 8圓28錢 新見 正喜君

人事異動報告

昭和11年10月2日 傳染病研究所

- | 發令<br>月日 | 辭令                                      | 官職  | 氏名      |
|----------|---|-----|---------|
| 8.27.    | 靜岡縣下へ出張ヲ命ズ(濱松市へ)                        | 教授  | 小島 三郎   |
| ,,       | 靜岡縣下へ出張ヲ命ズ(濱松市へ)                        | 囑託  | 小豆 加久治  |
| 9. 1.    | 依頼免本官(衛生技師ニ任ズ.<br>警視廳高等官七等ヲ以テ待遇<br>セラル) | 技手  | 加藤 英市   |
| 9. 7.    | 朝鮮へ出張ヲ命ズ                                | 囑託  | 井田 清    |
| 9.11.    | 朝鮮へ出張ヲ命ズ                                | 技手  | 佐藤 久藏   |
| 9.11.    | 朝鮮へ出張ヲ命ズ                                | 囑託  | 山田 誠    |
| 9.11.    | 滿洲國及中華民國へ出張ヲ命ズ                          | 教授  | 佐藤 秀三   |
| 9.14.    | 滿洲國へ出張ヲ命ズ                               | 囑託  | 井田 清    |
| 9.14.    | 研究生入學許可                                 | 菅原  | 芝郎      |
| 9.15.    | 本俸十一級俸下賜                                | 助教授 | 羽里 彦左衛門 |
| 9.25.    | 東京府下へ出張ヲ命ズ(金町へ)                         | 教授  | 小島 三郎   |
| 9.30.    | 東京府下へ出張ヲ命ズ<br>(東村山へ)                    | 技手  | 山岸 精實   |
| 9.30.    | 東京府下へ出張ヲ命ズ<br>(東村山へ)                    | 技手  | 宮本 正治   |

此ノ Pyridin ハ Nucleotid ノ差異竝ニ特殊ノ蛋白質ノ差異ニヨリ其ノ水素運輸ノ作用モ異ナツテキル。即チ Triphospho-Pyridin-Nucleotid ト特殊蛋白質トヨリナル酵素ハ Hexose-Mono-phosphorsäure ヲ dehydrieren シテ Phospho-hexonsäure トナス。又 Diphospho-Pyridin-Nucleotid ト他ノ特殊蛋白質トヨリ成ル酵素ハ Alkohol-醱酵ノ水素運輸ヲ行フ作用

ヲ有ス。而シテ此ノ後者ハ蛋白質ガ異ナレバ尙ホ他種ノ醱酵ヲモ營ミ得ルモノト想像サレル。

Träger トシテハタラク特殊蛋白質ノ方ハ紫外線ニヨル螢光ヲ示サナイノテ螢光ノ検査ニヨリ酵素ガ水素ト結合シ居ルヤ否ヤヲヨク判斷スル事ガ出來ル。(内野)

## 雜 報

### 學術集談會

去ル10月15日(木)午後1時ヨリ當所講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレ、演題ハ次ノ如クデアツタ。

#### 演 題

1. 日本産鈎頭蟲類ノ研究  
 { 福井 玉 夫君  
 { 森下 哲 夫君
2. 實驗的強度ノ運動ニヨル血像ノ變化竝ニ造血臟器等ノ組織學的研究  
 土 屋 毅君
3. 「ハロゲン化脂肪酸類竝ニ「オキシ脂肪酸類ノ殺菌作用 鐵 本 總 吾君
4. 過敏性ショック」發來ノ機序ニ關スル研究 特ニ過敏性反應ノ侵襲點ニ就テ  
 { 中村 敬 三君  
 { 高橋 義 夫君
5. 沖繩縣下ノ「フィラリヤ病」ニ就テ  
 石井信太郎君
6. 歸朝談 羽里彦左衛門君  
 (イ)余ノ滯獨中ノ業績ノ一二ニ就テ  
 (ロ)獨逸國ノ梅毒血清診斷ノ現狀
7. 軟性下疳菌ワクチン」ニ就テ  
 西澤 行 藏君

### 動物慰靈祭竝ニ春秋會

### 新舊會員送迎會

春秋會テハ去ル10月16日(金)午後3時ヨリ例年ノ通り動物慰靈祭ヲ執行シ、續イテ假食堂ニ於テ午後4時ヨリ秋季新舊會員送迎會ヲ開催シタ。

### 春秋會秋季遠足會

春秋會ハ恒例ノ秋ノ遠足トシテ11月1日(日)ニ相模川下リヲヤツタ。朝ノ天候ハ上乘テ參加スルモノ宮川會長 ハジメ 236名。7時45分新宿發臨時列車テ與瀬ニ至リ、徒歩10丁餘テ相模川ノ嵐山發船所ニ着イタ。10艘ノ川船ニ分乘シテ激流ヲ下ル。2,3日前ノ雨ノ爲メ水量平常ニ倍シ、船ハ矢ノ楫ニ下ツテ豫定ヨリ1時間餘早ク橋本ニ着イタ。船中又ハ橋本ノ荒川館テ晝食シテ、三々五々急坂ヲ攀ゲテ峯ノ藥師ニ詣テ、再ビ橋本ニ下ツテ入王子行貸切「バス」ノ到着ヲ待ツタ。入王子カラハ各自自由ニ歸路ニ着イタ。慾ヲ云ヘバ橋本テウスラ寒イ曇天下テ「バス」ヲ待ツタ數時間ヲ何トカ利用出來ル計畫ヲ考ヘテ置イテ欲シカツタ。例ヘバ峯ノ藥師カラ徒歩テ梅ノ木平ニ降ツテ、淺川ニ至ル「コース」ヲ案内シテ置クト云ツタ様ニ。

### 佐藤所員歸朝

去ル9月中旬ヨリ朝鮮・滿洲國及ビ中華民國へ出張中デアツタ所員佐藤教授ハ去ル11月2日無事歸朝サレタ。



## 人事異動報告

昭和11年11月2日 傳染病研究所

- | 發令<br>月日 | 辭令                               | 官職            | 氏名            |
|----------|----------------------------------|---------------|---------------|
| 9. 30.   | 研究生退學                            |               | 田中計徳          |
| 10. 2.   | 東京府下(全生病院)へ出張ヲ命ス                 | 教授            | 小島三郎          |
| 10. 3.   | 埼玉縣下(山口貯水池)へ出張ヲ命ス                | 教授            | 小島三郎          |
| ”        | ”                                | 技手            | 山岸精實          |
| ”        | ”                                | 同             | 宮本正治          |
| 10. 5.   | 依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク                  |               | 朽木五郎作         |
| ”        | 兼任東京帝國大學教授<br>臺北帝大教授             |               | 細谷省吾          |
| ”        | 叙高等官四等<br>免兼官                    |               |               |
| ”        | 臺北帝大教授<br>兼東大助教授                 |               | 細谷省吾          |
| ”        | 補傳染病研究所所員<br>東京帝大教授              |               | 細谷省吾          |
| 10. 15.  | 傳染病研究所業務ヲ囑託ス                     |               | 大林容二          |
| 10. 15.  | 研究生退學ヲ命ス                         |               | 大林容二          |
| 10. 19.  | 衛生技師ニ任ス(愛知縣)                     |               | 大久保關          |
|          |                                  |               | 高等官七等ヲ以テ待遇セラル |
| 10. 21.  | 京都及愛知ノ一府一縣下へ出張ヲ命ス(京都市、名古屋市及守山町へ) |               | 囑託 菊池常雄       |
| 10. 21.  | 依願免兼官                            |               |               |
|          |                                  | 防疫官兼<br>特許局技師 | 勝俣稔           |
| ”        | 昭和11年10月19日付願<br>研究生入學ノ件許可ス      |               | 藤森正雄          |
| 10. 22.  | 依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク                  |               | 大久保關          |
| 10. 31.  | 昭和11年10月30日付願<br>研究生退學ノ件許可ス      |               | 戸田又生          |
| 11. 1.   | 昭和11年8月25日付願<br>究生入學ノ件許可ス        |               | 木口三郎          |

# 報 雜

## 學術集談會

去ル11月19日(木)午後1時ヨリ講堂ニ於テ學術集談會が開催サレ、演題ハ次ノ如クデアツタ。

### 演題

1. 東京市内ニテ捕獲セル家鼠ト「サルモネラ菌」ノ關係(第1報)  
八田 貞義君
2. 「マラビオーゼ」ヲ應用セル雌性性週期ニ關スル實驗的研究  
木下 清吉君
3. 結核ノ化學療法ニ關スル研究  
(1) Biscoclaurin 系 Alkaloid 類ノ實驗的結核ニ及ボス影響(續報)  
(2) Phenyläther ヲ基核トセル種々ノ誘導體ノ實驗的結核ニ及ボス影響  
長谷川 秀治君  
富田 眞雄君  
中本 爲治郎君
4. 流行性腦炎ノ感染經路ニツイテ  
蚊ニヨル傳播ニツイテノ其後ノ實驗  
三田村 篤志郎君  
山田 信一郎君  
羽里 彦左衛門君  
森 和雄君  
細井 輝彦君  
北岡 正見君  
渡邊 漸君  
大久保 薰君  
天神 智君
5. 昭和11年夏期ノ日本流行性腦炎ニ於ケル病毒ノ分離ニツイテ  
三田村 篤志郎君  
北岡 正見君  
大久保 薰君
6. 魚類ノ防腐ト凍結ニ就テ(綜説)  
遠山 祐三君

## 佐藤所員ノ視察談

先般朝鮮、滿洲國及ビ中華民國ヲ視察シテ歸朝シタ所員佐藤教授ハ、去ル11月26日(木)午後1時ヨリ約2時間半ニ亙リ、當所講堂ニ

於テ其ノ視察談ヲナシタガ、多數ノ幻燈寫眞ヲ用ヒ非常ニ興味深イモノデアツタ。

## 學友會へ寄附

- 一金 32圓 33錢也 土屋 毅君
- 一金 14圓 16錢也 山岸 精實君
- 一金 3圓 33錢也 中村 敬三君

## 人事異動報告

昭和11年12月1日 傳染病研究所

- | 發令月日    | 辭令              | 官職           | 氏名     |
|---------|-----------------|--------------|--------|
| 11. 2.  | 依願免本官           | 技手           | 木下 清吉  |
| 11. 6.  | 栃木縣下へ出張ヲ命ズ      | (古河鑛業所) 同    | 山岸 精實  |
| " "     | " "             | 同            | 宮本 正治  |
| 11. 7.  | 英領印度へ出張ヲ命ズ      | 同            | 土屋 毅   |
| 11. 9.  | 静岡縣下へ出張ヲ命ズ      | 囑託           | 菊地 常雄  |
| 11. 10. | 神奈川県下へ出張ヲ命ズ     | 技手           | 山岸 精實  |
| " "     | " "             | 同            | 宮本 正治  |
| 11. 11. | 兼任傳染病研究所技師      | 防疫官兼<br>内務技師 | 勝 俣 稔  |
|         |                 | 敘高等官三等       |        |
| 11. 3.  | 東京府下へ出張ヲ命ズ      | (清瀬病院) 技手    | 山岸 精實  |
| " "     | " "             | 同            | 宮本 正治  |
| 11. 14. | 宮城縣下へ出張ヲ命ズ      | 囑託           | 中村 二三郎 |
| 11. 17. | 愛知縣下へ出張ヲ命ズ      | 同            | 菊池 常雄  |
| 11. 22. | 愛知縣下へ出張期間ノ延長ヲ命ズ | 同 同          | 人      |
| 11. 27. | 東京府下へ出張ヲ命ズ      | 技手           | 山岸 精實  |
| " "     | " "             | 同            | 宮本 正治  |
| 11. 28. | 千葉縣下へ出張ヲ命ズ      | 囑託           | 中村 二三郎 |